

VMware View のアップグレード

View 4.6

View Manager 4.6

View Composer 2.6

このドキュメントは新しいエディションに置き換わるまで、ここで書いてある各製品と後続のすべてのバージョンをサポートします。このドキュメントの最新版をチェックするには、<http://www.vmware.com/jp/support/pubs> を参照してください。

JA-000526-00

vmware[®]

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<http://www.vmware.com/jp/support/pubs/>) にあります
VMware の Web サイトでは最新の製品アップデートも提供されています。

このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

Copyright © 2009–2011 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。本製品は、米国著作権法および米国知的財産法ならびに国際著作権法および国際知的財産法により保護されています。VMware 製品には、<http://www.vmware.com/go/patents-jp> に列記されている 1 つ以上の特許が適用されます。

VMware は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。他のすべての名称ならびに製品についての商標は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴァイエムウェア株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

目次

VMware View アップグレード	5
1 VMware View コンポーネントの互換性マトリックス	7
2 VMware View のアップグレードの概要	9
3 アップグレードのシステム要件	11
View Connection Server の要件	11
View Connection Server のハードウェア要件	11
View Connection Server でサポートされるオペレーティングシステム	12
View Connection Server のアップグレード要件	13
View Connection Server の仮想化ソフトウェア要件	13
View Transfer Server の要件	13
View Transfer Server のインストール要件	13
View Transfer Server でサポートされるオペレーティングシステム	14
View Composer の要件	14
View Composer でサポートされるオペレーティングシステム	14
View Composer のデータベース要件	15
View Administrator の要件	16
View Client および View Client with Local Mode でサポートされるオペレーティングシステム	16
ローカル モード デスクトップのハードウェア要件	17
View Portal のクライアント ブラウザ要件	18
View Agent でサポートされるオペレーティングシステム	19
4 VMware View のアップグレードの準備	21
アップグレードのための View Connection Server の準備	21
アップグレードのための vCenter Server および View Composer の準備	22
5 VMware View Server コンポーネントのアップグレード	25
レプリカ グループ内の View Connection Server のアップグレード	25
別のマシンでの View Connection Server 4.6 へのアップグレード	27
View Connection Server をスナップショットに戻した後のレプリカ グループの作成	28
View Transfer Server のアップグレード	29
別のマシンでの View Transfer Server 4.6 へのアップグレード	30
View Composer のみのアップグレード	30
View Composer データベースの手動アップグレード	32
SviConfig の実行によるデータベースの手動アップグレード	32
手動データベース スキーマ更新の結果コード	34
View Composer データベース アップグレードの失敗のトラブルシューティング	34
別のマシンでの View Composer 2.6 および vCenter Server 4.1 へのアップグレード	35
View Composer を移行するための移行元マシンの準備	35

データ移行ツールを使用した新しいマシンへの移行 37
新しいマシンへの View Composer の手動による移行 39

- 6 ESX ホストおよび仮想マシンのアップグレード 43
 - ESX 3.5 ホストとその仮想マシンのアップグレード 43
 - ESX 4.0 ホストとその仮想マシンのアップグレード 45

- 7 VMware View のデスクトップとクライアントのアップグレード 47
 - View Agent のアップグレード 47
 - View Composer デスクトップ プールのアップグレード 48
 - View Client のアップグレード 49
 - View Local Mode Client のアップグレード 50
 - View Client with Local Mode への Offline Desktop クライアントのアップグレード 51

- 8 vSphere コンポーネントの個別のアップグレード 53
 - インデックス 55

VMware View アップグレード

『VMware View アップグレード』では、VMware View™ 3.1.x、View 4.0.x、または View 4.5.x から View 4.6 へのアップグレード手順について説明します。View 4.6 パッチリリースにアップグレードするときも、このガイドを使用できます。

また、VMware Infrastructure 3.5 または vSphere 4.0 から vSphere 4.1 にアップグレードする場合も、このガイドを読むと VMware View のアップグレードのさまざまな段階で実行する手順がわかります。

VMware View 4.6 パッチ リリースの場合は、このドキュメントの View Manager、View Composer、View Agent、および View Client に関する項を参照してください。

対象読者

このガイドは、VMware View 3.1.x、View 4.0.x または View 4.5.x から View 4.6 にアップグレードする必要があるすべての方を対象としています。このガイドに記載されている情報は、仮想マシンのテクノロジーとデータセンターの操作に精通した、経験豊富な Microsoft Windows または Linux システム管理者向けに書かれています。

VMware View コンポーネントの互換性マトリックス

1

大企業ではアップグレードを段階的に実行する必要がある場合が多いため、VMware View コンポーネントは上位互換性と下位互換性が維持されるように設計されています。VMware View 4.6 のコンポーネントには、VMware View 3.1.x、4.0.x、および 4.5.x のほとんどのコンポーネントとの互換性があります。

コンポーネント間には上位互換性と下位互換性がありますが、View Connection Server と View Agent との互換性は、View Connection Server のアップグレード中またはダウングレード中の相互運用性に限定されます。View Agent を管理する View Connection Server のバージョンに合わせて、できるだけ早く View Agent をアップグレードする必要があります。

表 1-1 に、VMware View のコンポーネントの一覧と、バージョンの異なる他のコンポーネントに対するそれぞれの互換性を示します。VMware Infrastructure および vSphere との互換性については、「[View Connection Server の仮想化ソフトウェア要件 \(P. 13\)](#)」を参照してください。

注意 VMware View 3.1.x および 4.0.x の View Portal コンポーネントは変更されており、VMware View 4.5 以降のバージョンの View Portal には、完全な Windows ベースの View Client および完全な Mac ベースの View Client をダウンロードするための Web ページとしての機能しかありません。このため、View Portal は互換性の表では示されていません。Mac ベースの View Client は、View 4.5 以降のコンポーネントのみと互換性があります。

表 1-1. VMware View コンポーネントの互換性マトリックス

	View 3 または View 4 のコンポーネント				
	Connection Server 4.5.x、4.0.x、または 3.1.x	View Agent 4.5.x、4.0.x、または 3.1.x	View Client 4.5.x、4.0.x、または 3.1.x	Thin Client 4.5.x、4.0.x、または 3.1.x	View Composer 2.5、2.0、または 1.0
View 4.6					
Connection Server 4.6	該当なし	はい	はい	はい	制限付き
Security Server 4.6 (PCoIP および RDP)	はい	はい	はい	はい	該当なし
View Agent 4.6	はい	該当なし	はい	はい	はい
View Client (Windows) 4.6	はい	はい	該当なし	該当なし	はい
View Client (Mac) 4.6	4.5 のみ	4.5 のみ	該当なし	該当なし	2.5 のみ
View Client with Local Mode 4.6	4.5 のみ	4.5 のみ	4.5 のみ	いいえ	2.5 のみ
Thin Client 4.6	はい	はい	該当なし	該当なし	はい
View Composer 2.6	制限付き	4.5 のみ	該当なし	該当なし	該当なし

View Connection Server と View Composer の両方がアップグレードされるまで、View Composer の操作は機能しません。View Connection Server 4.6 と View Composer 1.0、2.0、または 2.5 がある場合、ユーザーは各自のデスクトップに接続できますが、新しいリンク クローン デスクトップは作成できず、再構成、再分散、および更新の操作は機能しません。また、リンク クローン プールの設定は編集できません。

重要 表で示されているように、View Agent 3.1.x および 4.0.x は、View Composer 2.6 との互換性がありません。そのため、View 4.6 に固有の機能を使用するプールを作成、再構成、または更新するときは、View 4.0.x または 3.1.x のマスタ イメージまたはスナップショットは使用できません。このような View 4.5 から導入された機能としては、システム廃棄可能ディスク (SDD) の使用、Sysprep カスタマイズ仕様の使用、以前にアーカイブしたユーザー データ ディスク (UDD) の既存デスクトップへの接続などがあります。

View Composer 2.6 は View Connection Server 4.0.x または 3.1.x と制限付きで連携できますが、このセットアップは同じ保守期間内にすべての View Connection Server インスタンスをアップグレードできない場合にのみ使用できます。具体的には、View Composer 2.5 から導入された SysPrep カスタマイズの使用などの機能は、View Agent 4.5 にアップグレードするまでは使用できません。

View Client with Local Mode は View 4.5 から導入された機能であり、その前身である Offline Desktop は試験的機能であったため、View Client with Local Mode には View 4.0.x および 3.1.x のコンポーネントとの下位互換性はありません。

注意 このドキュメントの説明は、VMware View 4.6 のパッチ リリースにも適用されます。

VMware View のアップグレードの概要

VMware View のエンタープライズ展開のアップグレードには、高度な作業がいくつか含まれます。アップグレードは複数のステージからなるプロセスであり、特定の順序で手順を実行する必要があります。

アップグレード処理は特定の順序で行う必要があります。アップグレードの各ステージを完了してから次のステージに移らないと、データが失われたり、サーバにアクセスできなくなったりします。各アップグレード ステージの中での順序も重要です。

以下の作業のうち行う必要があるものの数は、展開で使用する VMware View のコンポーネントによって異なります。VMware View 4.6 には View 4.5 より前のリリースでは使用できなかったコンポーネントが含まれるので、一部の作業はアップグレードというよりインストールになる場合があります。

- 1 View Connection Server インスタンスをホストする物理マシンまたは仮想マシンで、バックアップを行い、さまざまな構成とシステム設定を記録します。[「アップグレードのための View Connection Server の準備 \(P. 21\)」](#)を参照してください。
- 2 View Composer および vCenter Server をホストする物理マシンまたは仮想マシンで、バックアップを行い、スケジュールを設定されている一部のタスクを一時的に停止します。[「アップグレードのための vCenter Server および View Composer の準備 \(P. 22\)」](#)を参照してください。
- 3 View 3.1.x または 4.0.x の Client with Offline Desktop、または View 4.5 Client with Local Mode を使用しているエンドユーザーがいる場合は、View デスクトップをチェックインするようエンドユーザーに伝えます。
- 4 View Connection Server を既存のホストでアップグレードするか、または新しいマシンに移行します。[「レプリカグループ内の View Connection Server のアップグレード \(P. 25\)」](#)を参照してください。
- 5 View 3.1.x または 4.0.x からアップグレードする場合は、以前はログにのみ記録されていた一部の View Connection Server イベントを表示するために View Administrator 4.6 が使用するイベント データベースをインストールして構成します。[『VMware View 4.6 インストール ガイド』](#)を参照してください。

View 4.5 からアップグレードする場合は、このデータベースはおそらく既にインストールされています。View 4.5 データベース スキーマをアップグレードする必要はありません。View 4.6 ではデータベース スキーマの変更は不要です。

- 6 View Client with Local Mode コンポーネントの場合は、1 つ以上の View Transfer Server インスタンスをアップグレードまたは構成します。

現在のバージョン	アクション
View 3.1.x および 4.0.x	Transfer Server インスタンスをインストールします。[VMware View 4.6 インストール ガイド] を参照してください。
View 4.5	Transfer Server インスタンスをアップグレードします。[View Transfer Server のアップグレード (P. 29)] を参照してください。

このサーバは、エンド ユーザーがクライアント システムでローカルに View デスクトップをチェックアウトして実行するために必要なデータを転送します。

View Client with Local Mode は完全にサポートされている機能であり、以前のリリースでは View Offline Desktop という名前の試験的機能でした。

- 7 既存ホストの View Composer をアップグレードするか、または vSphere 4.1 へのアップグレードも行う場合は新しいマシンに移行します。[別のマシンでの View Composer 2.6 および vCenter Server 4.1 へのアップグレード (P. 35)] を参照してください。
- 8 デスクトップソースとして、プール内のフルクローン デスクトップとして、および手動プール内の個別のデスクトップとして、それぞれ使用されている物理マシンまたは仮想マシン上で実行する VMware View ソフトウェアをアップグレードします。[View Agent のアップグレード (P. 47)] を参照してください。
- 9 新しくアップグレードした仮想デスクトップソースを使用して、View デスクトップのアップグレードされたプールを作成します。[View Composer デスクトップ プールのアップグレード (P. 48)] を参照してください。
- 10 エンド ユーザーのクライアント デバイスで実行する VMware View ソフトウェアをアップグレードします。[View Client のアップグレード (P. 49)] および [View Client with Local Mode への Offline Desktop クライアントのアップグレード (P. 51)] を参照してください。

一部のコマンドは複数のステージを同時にアップグレードできるので、各ステージでの元に戻すことができない変更についてよく理解してから、本稼働環境をアップグレードすることをお勧めします。

アップグレードのシステム要件

VMware View の展開に含めるホストおよび仮想マシンは、特定のハードウェア要件およびオペレーティングシステム要件を満たしている必要があります。

この章では次のトピックについて説明します。

- [View Connection Server の要件 \(P. 11\)](#)
- [View Transfer Server の要件 \(P. 13\)](#)
- [View Composer の要件 \(P. 14\)](#)
- [View Administrator の要件 \(P. 16\)](#)
- [View Client および View Client with Local Mode でサポートされるオペレーティングシステム \(P. 16\)](#)
- [ローカル モード デスクトップのハードウェア要件 \(P. 17\)](#)
- [View Portal のクライアント ブラウザ要件 \(P. 18\)](#)
- [View Agent でサポートされるオペレーティングシステム \(P. 19\)](#)

View Connection Server の要件

View Connection Server はクライアント接続のブローカーとして機能し、受信したユーザーの要求を認証した後、適切な View デスクトップにダイレクトします。View Connection Server には、特定のハードウェア要件、オペレーティングシステム要件、インストール要件、およびサポート ソフトウェア要件があります。

View Connection Server のハードウェア要件

View Connection Server は、特定のハードウェア要件を満たす 32 ビットまたは 64 ビットの専用の物理マシンまたは仮想マシンにインストールする必要があります。

表 3-1. View Connection Server のハードウェア要件

ハードウェア コンポーネント	必須	推奨
プロセッサ	Pentium IV 2.0GHz 以上のプロセッサ	デュアル プロセッサ
ネットワーク	1 つ以上の 10/100Mbps ネットワーク インターフェイス カード (NIC)	1Gbps NIC

表 3-1. View Connection Server のハードウェア要件 (続き)

ハードウェア コンポーネント	必須	推奨
メモリ Windows Server 2008 64 ビット	4GB 以上の RAM	50 以上の View デスクトップを展開する場合は 10GB 以上の RAM
メモリ Windows Server 2003 32 ビット	2GB 以上の RAM	50 以上の View デスクトップを展開するための 6GB の RAM、および物理アドレス拡張 (PAE) の有効化 Microsoft のサポート情報記事 (http://support.microsoft.com/kb/283037) を参照してください。

上記の要件は、高可用性または外部アクセスのためにインストールする View Connection Server (レプリカおよびセキュリティ サーバ) インスタンスにも適用されます。

重要 View Connection Server をホストする物理マシンまたは仮想マシンは、固定 IP アドレスを使用する必要があります。

View Connection Server でサポートされるオペレーティング システム

View Connection Server をサポートされるオペレーティング システムにインストールする必要があります。

表 3-2 に、View Connection Server でサポートされるオペレーティング システムを示します。

これらのオペレーティング システムは、View Connection Server のすべてのインストール タイプ (標準、レプリカ、セキュリティ サーバ) をサポートします。

表 3-2. View Connection Server のオペレーティング システム サポート

オペレーティング システム	バージョン	エディション	サービス パック
Windows Server 2008 R2	64 ビット	Standard Enterprise	該当なし
Windows Server 2003 R2	32 ビット	Standard Enterprise	SP2
Windows Server 2003	32 ビット	Standard Enterprise	SP2

重要 Windows Server 2003 オペレーティング システムを使用する場合は、物理アドレス拡張 (PAE) を有効にしてください。Microsoft のサポート情報記事 (<http://support.microsoft.com/kb/283037>) を参照してください。

PCoIP Secure Gateway のシステム要件

セキュリティ サーバは Windows Server 2003 物理または仮想マシンにインストールできますが、PCoIP Secure Gateway コンポーネントを使用したい場合は、オペレーティング システムが 64 ビットの Windows Server 2008 R2 である必要があります。PCoIP Secure Gateway コンポーネントによって、PCoIP ディスプレイ プロトコルを採用している View Client は、企業のファイアウォールの外側からの VPN を使用せずにセキュリティ サーバを使用できます。

64 ビットの Windows Server 2008 R2 ホスト上で実行するセキュリティ サーバと、Windows Server 2003 または 2003 R2 上で実行する Connection Server のインスタンスとをペアにすることができます。クライアントはこのペアでも PCoIP Secure Gateway を使用できます。

重要 複数のセキュリティ サーバの前にロード バランサを使用する場合は、すべてのセキュリティ サーバが同じオペレーティング システムを使用することを確認してください。

View Connection Server のアップグレード要件

View Connection Server のアップグレード処理には、特定の要件および制限事項があります。

- View Connection Server には View 4.6 の有効なライセンス キーが必要です。VMware View 4.0 のリリースの時点では、VMware View のライセンス キーは 25 文字のキーです。
- View Connection Server の新しいバージョンのインストールに使用するドメイン ユーザー アカウントは、View Connection Server ホスト上での管理者権限を持っている必要があります。View Connection Server の管理者は、vCenter Server の管理者認証情報を持っている必要があります。

追加の物理マシンまたは仮想マシン上で View Connection Server インスタンスの新規インストールを実行する計画がある場合は、『VMware View インストール ガイド』でインストール要件の完全なリストを参照してください。

View Connection Server の仮想化ソフトウェア要件

View Connection Server が正常に機能するためには、VMware 仮想化ソフトウェアが必要です。

- vSphere を使用する場合は、vSphere 4.0 Update 2 以降または vSphere 4.1 以降が必要です。
- VMware Infrastructure を使用する場合は、VMware Infrastructure 3.5 Update 5 および VirtualCenter Server 2.5 Update 6 が必要です。
- ESX ホストと ESXi ホストの両方がサポートされます。

View Transfer Server の要件

View Transfer Server はオプションの View Manager コンポーネントであり、ローカル モードで実行するデスクトップのチェック イン、チェックアウト、およびレプリケーションをサポートします。View Transfer Server には、特定のインストール要件、オペレーティングシステム要件、およびストレージ要件があります。

View Transfer Server のインストール要件

View Transfer Server は、特定の要件を満たす仮想マシンに Windows アプリケーションとしてインストールする必要があります。

View Transfer Server をホストする仮想マシンは、以下のネットワーク接続に関するいくつかの要件を満たしている必要があります。

- 管理対象のローカル デスクトップと同じ vCenter Server インスタンスによって管理されている必要があります。
- ドメインの一部でなくてもかまいません。
- 静的 IP アドレスを使用している必要があります。



注意 LSI Logic Parallel SCSI コントローラを使用して Transfer Server をホストするように仮想マシンを構成する必要があります。SAS や VMware 準仮想化コントローラは使用できません。

Windows Server 2008 仮想マシンでは、デフォルトで LSI Logic SAS コントローラが選択されています。オペレーティングシステムをインストールする前に、この選択を LSI Logic Parallel コントローラに変更する必要があります。

View Transfer Server ソフトウェアは、View Connect Server などの他の View Manager ソフトウェアがインストールされている仮想マシンにインストールすることはできません。

View Transfer Server インスタンスを複数インストールすることで、可用性とスケーラビリティを高めることができます。

View Transfer Server でサポートされるオペレーティング システム

View Transfer Server は、必要な量の RAM を搭載したサポート対象オペレーティング システムにインストールする必要があります。

表 3-3. View Transfer Server のオペレーティング システム サポート

オペレーティング システム	バージョン	エディション	サービス パック	最小 RAM
Windows Server 2008 R2	64 ビット	Standard Enterprise	該当なし	4GB
Windows Server 2003 R2	32 ビット	Standard Enterprise	SP2	2GB
Windows Server 2003	32 ビット	Standard Enterprise	SP2	2GB

重要 View Transfer Server をホストする仮想マシンごとに 2 つの仮想 CPU を構成します。

View Composer の要件

View Manager では、中央で管理される 1 つの基本イメージから複数のリンク クローン デスクトップを展開するために View Composer を使用します。View Composer には特定のインストール要件およびストレージ要件があります。

View Composer でサポートされるオペレーティング システム

View Composer は 64 ビットおよび 32 ビットのオペレーティング システムをサポートしますが、固有の要件と制限があります。View Composer は、vCenter Server と同じ物理コンピュータまたは仮想マシンにインストールする必要があります。

64 ビット オペレーティング システム

表 3-4 に、View Composer でサポートされる 64 ビット オペレーティング システムを示します。Standard および Enterprise の各エディションがサポートされています。

表 3-4. View Composer の 64 ビット オペレーティング システムのサポート

vCenter Server のバージョン	オペレーティング システム	サービス パック
4.1 以降	Windows Server 2008 R2	該当なし
4.1 以降	Windows Server 2008	SP2
4.1 以降	Windows Server 2003 R2	SP2
4.1 以降	Windows Server 2003	SP2
4.0 Update 2 以降	Windows Server 2008	SP2

32 ビット オペレーティング システム

表 3-5 に、View Composer でサポートされる 32 ビット オペレーティング システムを示します。Standard および Enterprise の各エディションがサポートされています。

表 3-5. View Composer の 32 ビット オペレーティング システムのサポート

vCenter Server のバージョン	オペレーティング システム	サービス パック
4.0 Update 2 以降	Windows Server 2003	SP2
2.5 Update 6	Windows Server 2003 R2	SP2
2.5 Update 6	Windows Server 2003	SP2

View Composer のデータベース要件

View Composer には、データを格納するための SQL データベースが必要です。View Composer データベースは、vCenter Server コンピュータ上に存在するか、vCenter Server コンピュータから利用できる必要があります。

vCenter Server 用のデータベース サーバがすでに存在する場合、既存のデータベース サーバが表 3-6 に示すバージョンであれば View Composer でそれを使用できます。たとえば、vCenter Server とともに提供される Microsoft SQL Server 2005 Express インスタンスを View Composer で使用できます。データベース サーバがまだ存在しない場合は、インストールする必要があります。

View Composer は、vCenter Server がサポートするデータベース サーバの一部をサポートします。View Composer でサポートされていないデータベース サーバを vCenter Server ですでに使用している場合は、vCenter Server 用にはそのデータベース サーバを引き続き使用し、View Composer および View Manager データベース イベント用に別のデータベース サーバをインストールします。

重要 vCenter Server と同じ SQL Server インスタンスに View Composer データベースを作成する場合は、vCenter Server データベースを上書きしないでください。

表 3-6 にサポートされるデータベース サーバとバージョンの一覧を示します。vCenter Server でサポートされるデータベースのバージョンの完全な一覧については、VMware vSphere のドキュメントの Web サイトで『VMware vSphere Compatibility Matrixes』を参照してください。

表 3-6. View Composer でサポートされるデータベース サーバ

データベース	vCenter Server 4.1 以降	vCenter Server 4.0 U2 以降	VC Server 2.5 U6
Microsoft SQL Server 2000 SP4 Standard	いいえ	いいえ	はい
Microsoft SQL Server 2005 Express	はい	はい	はい
Microsoft SQL Server 2005 SP3 Standard および Enterprise	はい	はい	はい
Microsoft SQL Server 2008 SP1 Standard および Enterprise	はい	はい	いいえ
Microsoft SQL Server 2008 SP1 Standard および Enterprise 64 ビット	はい	はい	いいえ
Oracle 9i Release 2	いいえ	いいえ	はい
Oracle 10g Release 2	はい	はい	いいえ
Oracle 11g Release 1	はい	はい	いいえ

View Administrator の要件

管理者は、View Administrator を使って View Connection Server の設定、デスクトップの展開と管理、ユーザー認証の制御、システム イベントの開始と調査、および分析作業を実行します。View Administrator を実行するクライアントシステムは、特定の要件を満たす必要があります。

View Administrator は Web ベースのアプリケーションで、View Connection Server をインストールするとインストールされます。View Administrator は次の Web ブラウザでアクセスして使用できます。

- Internet Explorer 7
- Internet Explorer 8
- Firefox 3.0
- Firefox 3.5

View Administrator を Web ブラウザで使用するには、Adobe Flash Player 10 をインストールする必要があります。Adobe Flash Player をインストールするには、クライアントシステムにインターネットへのアクセス権が必要です。

テキストを正しく表示するため、View Administrator では Microsoft 固有のフォントが必要です。Web ブラウザを Linux、UNIX、Mac OS などの Windows 以外のオペレーティングシステムで実行する場合は、Microsoft 固有のフォントがコンピュータにインストールされていることを確認してください。

現在、Microsoft の Web サイトでは Microsoft のフォントは配布されていませんが、別の Web サイトからダウンロードできます。

View Client および View Client with Local Mode でサポートされるオペレーティングシステム

ユーザーは View Client を実行して View デスクトップに接続します。サポートされるオペレーティングシステムに View Client または View Client with Local Mode をインストールする必要があります。

表 3-7 に、View Client でサポートされるオペレーティングシステムを示します。

表 3-7. View Client のオペレーティングシステムのサポート

オペレーティングシステム	バージョン	エディション	サービスパック
Windows 7	32 ビットおよび 64 ビット	Home、Enterprise、Professional、Ultimate	該当なし
Windows XP	32 ビット	Home、Professional	SP3
Windows Vista	32 ビット	Home、Business、Enterprise、Ultimate	SP1 および SP2
Mac OS X Leopard 10.5	該当なし	該当なし	該当なし
Mac OS X Snow Leopard 10.6	該当なし	該当なし	該当なし

重要 View Client with Local Mode は、Windows システムのみで、または物理コンピュータのみでサポートされます。さらに、この機能を使用するには、VMware ライセンスに View Client with Local Mode が含まれている必要があります。

View Client with Local Mode は完全にサポートされている機能であり、以前のリリースでは View Client with Offline Desktop という名前の試験的機能でした。

ESX/ESXi 3.5 ホスト上に作成された Windows 7 または Windows Vista の View デスクトップは、3D および Windows Aero の効果を生成できません。この制限は、デスクトップが Windows 7 または Windows Vista クライアント コンピュータでローカルに使用するためにチェックアウトされた場合も適用されます。Windows Aero および 3D の効果は、View デスクトップが vSphere 4.x を使用して作成された場合にのみ使用できます。

注意 VMware パートナーから、VMware View 展開用のシンクライアント デバイスが提供されています。各シンクライアント デバイスで利用できる機能および Linux オペレーティング システムは、ベンダーとモデルおよび採用する構成によって決まります。シンクライアント デバイスのベンダーとモデルについては、VMware の Web サイトで提供されている『Thin Client Compatibility Guide』を参照してください。

ローカル モード デスクトップのハードウェア要件

View デスクトップをローカル コンピュータで実行するためにチェックアウトするときは、クライアント コンピュータのハードウェアが、ローカル システムと、その上で実行する仮想マシンの両方をサポートしている必要があります。

PC のハードウェア

表 3-8 では、各種 View デスクトップ オペレーティング システムのハードウェア要件について説明します。

表 3-8. プロセッサの要件

クライアント コンピュータの要件	説明
PC	標準 x86 または x86 64 ビット互換
CPU の数	マルチプロセッサ システムをサポート
CPU の速度	Windows XP ローカル デスクトップの場合で 1.3GHz 以上 (推奨: 1.6 GHz) Windows 7 デスクトップの場合で 1.6GHz 以上、Aero 効果を使用するには 2.2GHz 以上
Intel プロセッサ	Pentium 4、Pentium M (PAE 対応)、Core、Core 2、Core i3、Core i5、および Core i7 プロセッサ Windows 7 Aero の場合: Intel Dual Core
AMD プロセッサ	Athlon、Athlon MP、Athlon XP、Athlon 64、Athlon X2、Duron、Opteron、Turion X2、Turion 64、Sempron、Phenom、および Phenom II Windows 7 Aero の場合: Athlon 4200+ 以上
64 ビット オペレーティング システム	Intel Pentium 4 および Core 2、および EM64T/Intel 仮想化技術搭載の Core i7 プロセッサ ほとんどの AMD64 プロセッサ (初期改定 C Opteron プロセッサを除く)
Windows 7 Aero の GPU	nVidia GeForce 8800GT 以上 ATI Radeon HD 2600 以上

ディスク領域

View デスクトップでオペレーティング システムのデフォルト セットアップを使用する場合、実際に必要なディスク領域はそのオペレーティング システムおよびアプリケーションを物理 コンピュータにインストールして実行するために必要なディスク領域とほぼ同じになります。

たとえば、Microsoft では 32 ビットの Windows 7 オペレーティング システムを実行するマシンのハード ディスク領域として 16GB を推奨しています。32 ビットの Windows 7 仮想マシンに 16GB 仮想ハード ディスクを構成した場合、ローカル デスクトップをチェックアウトするときには、実際に使用されるディスク領域のみがダウンロードされます。16GB が割り当てられているデスクトップの場合、実際にダウンロードされるサイズは 7GB です。

デスクトップがダウンロードされた後は、16GB のハード ディスクを構成した場合であれば、使用されるディスク領域が 16GB まで拡大できます。スナップショットはレプリケーション中に作成されるため、それに相当するディスク領域がさらに必要です。たとえば、ローカル デスクトップに 7GB のディスク領域が使用されている場合、スナップショットはクライアント コンピュータ上でさらに 7GB を消費します。

IDE ハード ディスク ドライブおよび SCSI ハード ディスク ドライブがサポートされています。

メモリ

クライアント コンピュータでホスト オペレーティング システムを実行するための十分なメモリに加えて、View デスクトップのオペレーティング システムに必要なメモリ、およびクライアント コンピュータと View デスクトップで実行するアプリケーションに必要なメモリが必要です。VMware では、Windows XP および Windows Vista には 2GB 以上を、また Windows 7 には 3GB 以上をお勧めします。メモリ要件については、お使いのゲスト オペレーティング システムとアプリケーションのマニュアルを参照してください。

1 台のコンピュータで実行するすべての仮想マシンに割り当てることができるメモリの総容量は、コンピュータの RAM 容量によってのみ制限されます。32 ビット クライアント コンピュータの View デスクトップごとの最大メモリ容量は 8GB であり、64 ビットの場合は 32GB です。

ディスプレイ

32 ビットのディスプレイ アダプタをお勧めします。3DMark '06 などの 3D ベンチマークは、一部のグラフィック ハードウェアで Windows Vista や Windows 7 仮想マシンを実行している場合、正確にレンダリングされない、あるいはまったくレンダリングされないことがあります。

720p 以上でビデオを再生するには、マルチプロセッサ システムが必要です。

Windows 7 Aero をサポートする CPU および GPU の要件については、[「PC のハードウェア \(P. 17\)」](#) の表を参照してください。

View Portal のクライアント ブラウザ要件

クライアント システムからは、View Connection Server インスタンスにアクセスし、View Portal を使用して Mac ベースの View Client、Windows ベースの View Client、または View Client with Local Mode をインストールできます。Internet Explorer を使用している場合は、View Client の新しいバージョンがダウンロードできるようになると、View Portal でそのことが示されます。

View Portal を使用するには、次のいずれかの Web ブラウザが必要です。

- Internet Explorer 7
- Internet Explorer 8
- Firefox 3.0
- Firefox 3.5

Internet Explorer を使用しており、View Client がすでにインストールされていて、View Connection Server から入手できるバージョンがクライアント デバイスにインストールされているバージョンより新しい場合は、アップグレードを行うことができます。クライアント デバイスのバージョンと同じ場合は、View Portal はローカル システムにインストールされている View Client を起動します。

注意 View Portal は Linux をサポートしていません。Linux 用のネイティブクライアントは、VMware 認定パートナーからのみ入手できます。

View Agent でサポートされるオペレーティング システム

View Agent コンポーネントは、セッション管理、シングル サインオン、およびデバイスのリダイレクトに役立ちます。View Manager で管理されるすべての仮想マシン、物理システム、およびターミナル サーバに、View Agent をインストールする必要があります。

表 3-9 に、View Agent でサポートされるオペレーティング システムを示します。

表 3-9. View Agent のオペレーティング システムのサポート

ゲスト OS	バージョン	エディション	サービス パック
Windows 7	64 ビットおよび 32 ビット	Enterprise および Professional	該当なし
Windows Vista	32 ビット	Business および Enterprise	SP1 および SP2
Windows XP	32 ビット	Professional	SP3
Windows 2008 R2 Terminal Server	64 ビット	Standard	該当なし
Windows 2008 Terminal Server	64 ビット	Standard	SP2
Windows 2003 R2 Terminal Server	32 ビット	Standard	SP2
Windows 2003 Terminal Server	32 ビット	Standard	SP2

重要 仮想マシンで Windows 7 を使用する場合は、ホストは ESX/ESXi 4.0 Update 2 以降、または ESX/ESXi 4.1 以降である必要があります。

VMware View のアップグレードの準備

アップグレード処理を開始する前に、新しいバージョンのシステム要件の確認、データベースのバックアップ、サーバコンポーネントをホストしている仮想マシンのスナップショットの作成、および構成設定の記録を行う必要があります。

この章では次のトピックについて説明します。

- [アップグレードのための View Connection Server の準備 \(P. 21\)](#)
- [アップグレードのための vCenter Server および View Composer の準備 \(P. 22\)](#)

アップグレードのための View Connection Server の準備

View Connection Server をアップグレードする場合、または View Connection Server が依存する vSphere コンポーネントのいずれかをアップグレードする場合は、正常にアップグレードできるよう事前にいくつかの作業を実行する必要があります。

- 現在の View Connection Server インスタンスがインストールされている仮想マシンまたは物理マシンが、View 4.6 のシステム要件を満たしていることを確認します。

[\[View Connection Server の要件 \(P. 11\)\]](#) を参照してください。

- View Connection Server が仮想マシンにインストールされている場合は、その仮想マシンのスナップショットを作成します。View Connection Server インスタンスのレプリカ グループがある場合は、1 つの View Connection Server インスタンスのスナップショットだけを作成します。

スナップショットの作成手順については、vSphere Client のオンライン ヘルプを参照してください。このスナップショットに戻す必要があり、レプリカ グループ内に他にも View Connection Server インスタンスがある場合は、マスタをスナップショットに戻す前に、これらのインスタンスをアンインストールする必要があります。戻した後で、レプリカ インスタンスを再インストールして、その戻したインスタンスを参照します。

このスナップショットに「アップグレード準備作業」などのラベルを付けます。

- View Administrator を開き、すべてのグローバル設定およびデスクトップとプールの設定を記録します。たとえば、該当する設定のスクリーンショットを撮ります。レプリカ グループ内に View Connection Server インスタンスが複数存在する場合は、1 つのインスタンスの設定を記録するだけでかまいません。

バージョン	場所
View 3.1.x または 4.0.x	[Desktops and Pools (デスクトップとプール)]ビューおよび [Configuration (構成)]ビューの [Global Settings (グローバル設定)]セクション
View 4.5	[Inventory (インベントリ)]ツリーの [Pools (プール)]セクションと [Desktops (デスクトップ)]セクション、および [View Configuration (View の構成)]の [Global Settings (グローバル設定)]セクション

- **vdmexport.exe** コーティリティを使用して View 3.1.x、4.0.x、または 4.5.x の LDAP データベースをバックアップします。

手順については、現在ご使用の VMware View のバージョンの管理ガイドを参照してください (View 3 または View 4 の『View Manager 管理ガイド』または『VMware View 4.5 管理者ガイド』)。レプリカ グループ内に View Connection Server インスタンスが複数存在する場合は、1 つのインスタンスからデータをエクスポートするだけでかまいません。

- View Connection Server がインストールされているマシンの IP アドレスおよびシステム名を記録します。
- View Connection Server 上の View データベースに対して実行されるパッチ ファイルまたはスクリプトが社内で作成されているかどうかを確認し、作成されている場合はその名前と場所を記録します。
- View Connection Server にロード バランサを使用する場合は、ロード バランサの構成設定を記録します。

アップグレードのための vCenter Server および View Composer の準備

vCenter Server と View Composer は同じ仮想マシンまたは物理マシンにインストールされるため、一部の準備作業は両方に当てはまります。

vSphere を含むアップグレードの準備

View Composer 2.6 を備えた VMware View 4.6 へのアップグレードに加えて、vCenter Server 4.1 にもアップグレードする場合は、『vSphere アップグレード ガイド』を参照して、次の作業を以下の順序で実行する必要があります。

- 1 仮想マシンまたは物理マシンが vCenter Server 4.1 のシステム要件を満たしていることを確認します。
たとえば、vCenter Server 4.1 は 2 つの CPU を必要とし、64 ビット オペレーティングシステムで実行する必要があります。View Composer 1.0 および 2.0.x は 32 ビット オペレーティングシステムでのみサポートされていたので、vSphere 4.1 にアップグレードするということは、View Composer を別のマシンでアップグレードする必要があることを意味します。
- 2 vCenter Server が仮想マシンにインストールされている場合は、その仮想マシンのスナップショットを作成します。
スナップショットの作成手順については、vSphere Client のオンライン ヘルプを参照してください。
- 3 コンピュータ名が 15 文字より長い場合は、15 文字以下の短い名前に変更します。
この名前は、最初に 32 ビットの VirtualCenter Server 2.5 ホストまたは vCenter Server 4.0 ホストで使用し、その後 64 ビットの vCenter Server 4.1 ホストに移行するときに使用します。IP アドレスも同じものを使用します。
- 4 VirtualCenter または vCenter Server データベースと View Composer データベースをバックアップします。
データベースのバックアップ方法については、データベース ベンダーから提供されるマニュアルを参照してください。
- 5 データベース サーバに vCenter Server 4.1 との互換性があることを確認します。
たとえば、データベース サーバが Oracle 9i の場合、Oracle 10g または 11g にアップグレードする必要があります。vCenter Server を 32 ビット オペレーティングシステムから 64 ビット オペレーティングシステムに移行する予定で、データベースを同じシステムに置く場合は、データベースが 64 ビット オペレーティングシステムでサポートされていることを確認してください。
- 6 データベースに View Composer 2.6 との互換性があることを確認します。
View Composer は、vCenter Server がサポートするデータベース サーバの一部をサポートします。View Composer でサポートされていないデータベース サーバを vCenter Server ですでに使用している場合は、vCenter Server 用にはそのデータベース サーバを引き続き使用し、View Composer および View Manager データベース イベント用に別のデータベース サーバをインストールします。
- 7 SSL 証明書を含むフォルダをコピーします。
このフォルダは %ALLUSERSPROFILE%\Application Data\VMware\VMware VirtualCenter にあります。
- 8 vCenter Server がインストールされているマシンの IP アドレスおよびシステム名を記録します。

- 9 すべてのリンク クローン デスクトップ プールについて、新しい仮想マシンのプロビジョニングを無効にします。
View Composer とそのデスクトップ プールとは異なる保守期間にアップグレードされる場合があるため、両方のコンポーネントがアップグレードされるまでプロビジョニングを延期する必要があります。
- 10 いずれかのデスクトップ プールがログオフ時に OS ディスクを更新するように設定されている場合は、そのプールの [Desktop/Pools (デスクトップ/プール)] 設定を編集して、[Refresh OS disk on logoff (ログオフ時に OS ディスクを更新)] を [Never (更新しない)] に設定します。
この設定を行うと、まだ View Agent 4.6 にアップグレードされていないデスクトップの更新を新しくアップグレードされた View Composer が試みても、エラーが発生しません。
- 11 いずれかのデスクトップ プールに更新または再構成の操作のスケジュールが設定されている場合は、それらの操作をキャンセルします。

View Composer のみのアップグレードの準備

View Composer のみをアップグレードして、VirtualCenter Server をアップグレードしない場合は、次の作業を実行する必要があります。

- 1 View Composer が仮想マシンにインストールされている場合は、その仮想マシンのスナップショットを作成します。
スナップショットの作成手順については、vSphere Client のオンライン ヘルプを参照してください。
- 2 VirtualCenter または vCenter Server データベースと View Composer データベースをバックアップします。
データベースのバックアップ方法については、データベース ベンダーから提供されるマニュアルを参照してください。
- 3 データベースに View Composer 2.6 との互換性があることを確認します。
View Composer は、vCenter Server がサポートするデータベース サーバの一部をサポートします。View Composer でサポートされていないデータベース サーバを vCenter Server ですでに使用している場合は、vCenter Server 用にはそのデータベース サーバを引き続き使用し、View Composer および View Manager データベース イベント用に別のデータベース サーバをインストールします。
- 4 SSL 証明書を含むフォルダをコピーします。
このフォルダは %ALLUSERSPROFILE%\Application Data\VMware\VMware VirtualCenter にあります。
- 5 vCenter Server がインストールされているマシンの IP アドレスおよびシステム名を記録します。
- 6 すべてのリンク クローン デスクトップ プールについて、新しい仮想マシンのプロビジョニングを無効にします。
View Composer とそのデスクトップ プールとは異なる保守期間にアップグレードされる場合があるため、両方のコンポーネントがアップグレードされるまでプロビジョニングを延期する必要があります。
- 7 いずれかのデスクトップ プールがログオフ時に OS ディスクを更新するように設定されている場合は、そのプールの [Desktop/Pools (デスクトップ/プール)] 設定を編集して、[Refresh OS disk on logoff (ログオフ時に OS ディスクを更新)] を [Never (更新しない)] に設定します。
この設定を行うと、まだ View Agent 4.6 にアップグレードされていないデスクトップの更新を新しくアップグレードされた View Composer が試みても、エラーが発生しません。
- 8 いずれかのデスクトップ プールに更新または再構成の操作のスケジュールが設定されている場合は、それらの操作をキャンセルします。

VMware View Server コンポーネントのアップグレード

5

アップグレードする必要があるサーバー コンポーネントとしては、View Connection Server、View Client、および View Agent があります。使用しているオプション コンポーネントによっては、View Composer のアップグレードも必要になる場合があります。View Client with Local Mode を使用する場合は、View Transfer Server インスタンスもインストールまたはアップグレードする必要があります。

View の展開のサイズによっては、アップグレード処理を複数の保守期間にわたって段階的に実行する場合があります。

VMware View 4.6 パッチ リリースの場合は、このドキュメントの View Connection Server、View Transfer Server、View Composer、View Agent、および View Client に関する項を参照してください。

この章では次のトピックについて説明します。

- [レプリカ グループ内の View Connection Server のアップグレード \(P. 25\)](#)
- [View Transfer Server のアップグレード \(P. 29\)](#)
- [View Composer のみのアップグレード \(P. 30\)](#)
- [別のマシンでの View Composer 2.6 および vCenter Server 4.1 へのアップグレード \(P. 35\)](#)

レプリカ グループ内の View Connection Server のアップグレード

アップグレード作業を複数の保守期間に分散すると、処理の各段階で成功を確認したり、問題を発見したりすることができます。最初の保守期間には、View LDAP データベースを複製するグループ内のすべての View Connection Server インスタンスをアップグレードします。

VMware View 4.6 の新しい機能を使用するには、VMware View 4.6 にアップグレードする必要があります。View 4.6 に含まれる新機能の一覧については、リリース ノートを参照してください。

注意 この手順では、インプレース アップグレードについて説明します。異なるマシンに移行するには、「[別のマシンでの View Connection Server 4.6 へのアップグレード \(P. 27\)](#)」を参照してください。

開始する前に

- この手順をいつ実行すべきかを判断します。利用可能なデスクトップ保守期間を選択します。このアップグレードにかかる時間は、グループ内の View Connection Server インスタンスの数によって決まります。1 インスタンスにつき 15 ~ 30 分を予定してください。
- 「[アップグレードのための View Connection Server の準備 \(P. 21\)](#)」に一覧表示されている作業を実行します。
- VMware View の新しいバージョンのライセンスがあることを確認します。VMware View 4.0 以降のリリースでは、新しいライセンス モデルが使用されています。ライセンス キーは 25 文字で構成されます。アップグレードの購入が不要だった場合でも、View 4.0 以降のライセンス キーを使用する必要があります。
- インストーラを実行してアップグレードを行なうために使用するホストで、管理者権限を持つドメイン ユーザー アカウントを持っていることを確認してください。

- View 3.1.x、4.0.x、または 4.5.x からアップグレードする場合で、**vdmexport.exe** ユーティリティについて詳しくない場合は、View 3 または View 4 の『View Manager 管理ガイド』または『VMware View 4.5 管理者ガイド』に記載されているこのユーティリティの使用手順を印刷してください。このユーティリティは、アップグレード手順の一環として View LDAP データベースをバックアップするために使用します。
- セキュリティ サーバを使用する場合は、インストーラを実行して新しいセキュリティ サーバペアリングメカニズムを使用するセキュリティ サーバを作成する方法をよく理解してください。『VMware View 4.6 インストール ガイド』を参照してください。
- View Connection Server 上の GPO テンプレートの場所を思い出せない場合は、View 3.1.x および View 4.0.x については『View Manager 管理ガイド』のグループポリシー オブジェクトに関するセクションを、View 4.5.x については『VMware View 管理者ガイド』を参照してください。アップグレード手順の一環として、GPO テンプレートをコピーする必要があります。

既存のロード バランサの構成を変更する必要はありません。

手順

- 1 グループ内のすべての View Connection Server インスタンス上で、VMware View Connection Server というサービスを停止します。

同じグループ内の他のインスタンスが実行されている間に View Connection Server インスタンスをアップグレードすると、View LDAP データベースが破損するおそれがあります。

VMwareVDMDS サービスは停止しないでください。View LDAP データベースをアップグレードできるように、VMwareVDMDS サービスが実行されている必要があります。
- 2 グループ内の標準サーバ インスタンス、つまり最初のサーバ インスタンスである View Connection Server インスタンスのホスト上で、VMware View 4.6 Connection Server のインストーラを実行します。

旧バージョンがすでにインストールされているかどうかはインストーラによって判別され、アップグレードが実行されます。新規インストールの場合は、インストーラに表示されるインストール オプションの数が少なくなります。

View LDAP もアップグレードされます。
- 3 インストーラ ウィザードが閉じた後、VMware View Connection Server サービスが再起動したことを確認します。
- 4 View Connection Server にログインできることを確認し、View Administrator で [About (バージョン情報)] をクリックして、新しいバージョンが使用されていることを確認します。
- 5 [View Configuration (View の構成)] - [Product Licensing and Usage (製品のライセンスと使用状況)] を選択し、[Edit License (編集ライセンス)] をクリックして、View Manager のライセンス キーを入力し、[OK] をクリックします。
- 6 View デスクトップにログインできることを確認します。
- 7 再度 View Connection Server サービスを停止します。
- 8 手順 1 から手順 7 を繰り返して、グループ内の各 View Connection Server インスタンスをアップグレードします。
- 9 グループ内のすべてのサーバがアップグレードされた後、すべてのサーバ上で View Connection Server サービスを開始します。
- 10 **vdmexport.exe** ユーティリティを使用して、新しくアップグレードされた View LDAP データベースをバックアップします。

レプリカ グループ内に View Connection Server インスタンスが複数存在する場合は、1 つのインスタンスからデータをエクスポートするだけでかまいません。
- 11 アップグレードした View Connection Server インスタンスのいずれかで、GPO テンプレートをコピーし、Active Directory にロードします。

- 12 **手順 1** から**手順 7** を繰り返して、グループ内の各 View Connection Server インスタンスをアップグレードします。
このリリースの VMware View にはセキュリティ サーバ ペアリング メカニズムが含まれています。
- 13 セキュリティ サーバを使用する場合は、View Administrator で [View Configuration (View の構成)] - [Servers (サーバ)] に移動し、重複しているセキュリティ サーバを一覧から削除します。
- 新しい自動化されたセキュリティ サーバ ペアリング メカニズムでは、完全なシステム名が、セキュリティ サーバが最初に作成されたときに割り当てられた名前と一致しない場合、[Security Servers (セキュリティ サーバ)] の一覧に重複したエントリが作成される場合があります。

View Connection Server インスタンスはアップグレードされます。既存の View 3.1.x、View 4.0.x、または View 4.5.x View Client、および View 3.1.x、4.0.x、または 4.5.x View Agent がインストールされているデスクトップソースとの下位互換性が確保されています。

View 3.1.x または 4.0.x の展開では個別のデスクトップと呼ばれた View デスクトップは、View 4.6 では手動プールに追加されます。個別のデスクトップの場合、手動プールにはデスクトップが 1 つだけ含まれます。

次に進む前に

1 つ以上の View Connection Server インスタンスでアップグレードが失敗する場合は、[「View Connection Server をスナップショットに戻した後のレプリカ グループの作成 \(P. 28\)」](#) を参照してください。

View 4.0.x 以前からアップグレードしていて、アップグレードが成功した場合は、イベント データベースをインストールして構成します。方法については、[『VMware View インストール ガイド』](#) を参照してください。View 4.5 からアップグレードする場合は、おそらく View 4.5 をインストールするときにイベント データベースをインストールしています。イベント データベースは View 4.6 にアップグレードする必要はありません。

残りの View サーバ コンポーネントをアップグレードします。View Composer を使用する場合は、[「View Composer のみのアップグレード \(P. 30\)」](#) または [「別のマシンでの View Composer 2.6 および vCenter Server 4.1 へのアップグレード \(P. 35\)」](#) を参照してください。VMware View with Local Mode を使用する場合は、[「View Transfer Server のアップグレード \(P. 29\)」](#) を参照してください。

別のマシンでの View Connection Server 4.6 へのアップグレード

アップグレードの一部として、View Connection Server を新しいマシンに移行できます。たとえば、32 ビットの Windows 2003 Server マシンから 64 ビットの Windows 2008 Server マシンに View Connection Server を移行できます。64 ビット マシンの View Connection Server は、32 ビット マシンの 2 倍のエンドポイントを処理できます。

開始する前に

- 少なくとも 1 つの既存の View Connection Server インスタンスを View 4.6 にアップグレードします。[「レプリカ グループ内の View Connection Server のアップグレード \(P. 25\)」](#) を参照してください。このアップグレードの間に、既存の View LDAP がアップグレードされます。
- 新しい物理マシンまたは仮想マシンが View Connection Server のインストールに対するシステム要件を満たしていることを確認します。[「View Connection Server でサポートされるオペレーティング システム \(P. 12\)」](#) および [「View Connection Server のハードウェア要件 \(P. 11\)」](#) を参照してください。
- この手順をいつ実行すべきかを判断します。利用可能なデスクトップ保守期間を選択します。1 インスタンスにつき 15 ~ 30 分を予定してください。
- インストーラの実行に使用するホスト上に管理者権限のあるドメイン ユーザー アカウントがあることを確認します。
- レプリカ インスタンスをインストールするための手順をよく理解してください。[『VMware View インストール ガイド』](#) を参照してください。この手順の一部としてレプリカ インスタンスをインストールします。

既存のロード バランサの構成を変更する必要はありません。

手順

- 1 View Connection Server のアップグレードされたインスタンスが実行されていて、View Connection Server をインストールする予定の新しいマシンにアクセスできることを確認します。
新しいホストに View Connection Server をインストールするときは、この既存のインスタンスを指定します。
- 2 新しいマシンで、View Connection Server のレプリカ インスタンスをインストールします。
新しいインスタンスの View LDAP は、アップグレードされたソース インスタンスのものを複製します。
- 3 必要に応じて、Windows の [プログラムの追加と削除] コーティリティを使用して、古いホストから View Connection Server をアンインストールします。
- 4 View Administrator で、[View Configuration (View の構成)] - [Servers (サーバ)] に移動し、アンインストールした View Connection Server インスタンスがまだリストに表示されるかどうかを調べます。
- 5 アンインストールした View Connection Server インスタンスがまだリストに表示される場合は、`vdmadmin` コマンドを使用して削除します。

```
vdmadmin.exe -S -s <サーバ名> -r
```

この例では、<サーバ名> は View Connection Server ホストのホスト名または IP アドレスです。`vdmadmin` コマンド ライン ツールの詳細については、『VMware View 管理者ガイド』を参照してください。

View Connection Server の新しいインスタンスがグループに追加されて、古いインスタンスが削除されます。

次に進む前に

View 4.0.x 以前からアップグレードしていて、アップグレードが成功した場合は、イベント データベースをインストールして構成します。方法については、『VMware View インストール ガイド』を参照してください。View 4.5 からアップグレードする場合は、おそらく View 4.5 をインストールするときにイベント データベースをインストールしています。イベント データベースは View 4.6 にアップグレードする必要はありません。

残りの View サーバ コンポーネントをアップグレードします。View Composer を使用する場合は、[第 5 章 \[VMware View Server コンポーネントのアップグレード \(P. 25\)\]](#) を参照してください。

View Connection Server を Windows Server 2008 オペレーティング システムに再インストールしていて、パフォーマンス データを監視するようにデータ コレクタ セットを構成してある場合は、データ コレクタ セットを停止して再起動してください。

View Connection Server をスナップショットに戻した後のレプリカ グループの作成

アップグレードが失敗した場合、または他の理由で View Connection Server をホストする仮想マシンをスナップショットに戻す必要がある場合は、グループ内の他の View Connection Server インスタンスをアンインストールして、レプリカ グループを再作成する必要があります。

1 つの View Connection Server 仮想マシンをスナップショットに戻した場合、その仮想マシンのデータベースの View LDAP オブジェクトは、他のレプリカ インスタンスのデータベースの View LDAP オブジェクトと一致なくなっています。スナップショットに戻した後、次のイベントが Windows イベント ログ、VMwareVDMDS イベント ログ (イベント ID 2103) に記録されます。**Active Directory ライトウェイト ディレクトリ サービス データベースは、サポートされていない復元方法を使って復元されました。**戻された仮想マシンは View LDAP の複製を停止します。

スナップショットに戻す必要がある場合は、他の View Connection Server インスタンスをアンインストールし、これらの仮想マシンの View LDAP をアンインストールした後、レプリカ インスタンスを再インストールする必要があります。

開始する前に

どの View Connection Server インスタンスを新しい標準つまりマスタの View Connection Server にするかを決定します。この Connection Server に必要な View 構成データが含まれます。

手順

- 1 新しい標準 View Connection Server インスタンスとして選択したもの以外のすべての View Connection Server インスタンスで、View Connection Server および View LDAP インスタンスをアンインストールします。

仮想マシンのオペレーティングシステムが Windows Server 2003 の場合は、View LDAP インスタンスの名前は ADAM Instance VMwareVDMDS です。オペレーティングシステムが Windows Server 2008 の場合は、View LDAP インスタンスの名前は AD LDS Instance VMwareVDMDS です。

- 2 標準つまりマスタの View Connection Server インスタンスをホストする仮想マシンでコマンド プロンプトを開き、次のコマンドを入力して、レプリケーションが無効になっていないことを確認します。

```
repadmin /options localhost:389 -DISABLE_OUTBOUND_REPL -DISABLE_INBOUND_REPL
```

- 3 レプリカの View Connection Server インスタンスをホストする仮想マシンで、View Connection Server インストーラを実行し、[View Replica Server] インストール オプションを選択して、標準 View Connection Server インスタンスのホスト名または IP アドレスを指定します。

View Connection Server インスタンスのレプリカ グループが再作成され、その View LDAP オブジェクトが一致するようになります。

View Transfer Server のアップグレード

View Transfer Server コンポーネントは View 4.5 で追加されました。View Transfer Server はオプションの View Manager コンポーネントであり、ローカル モードで実行するデスクトップのチェック イン、チェックアウト、およびレプリケーションをサポートします。

注意 この手順では、インプレース アップグレードについて説明します。異なるマシンに移行するには、[「別のマシンでの View Transfer Server 4.6 へのアップグレード \(P. 30\)」](#) を参照してください。

開始する前に

- インストーラの実行に使用する Windows Server でローカル管理者権限があることを確認し、アップグレードを実行します。
- 現在の View Transfer Server インスタンスがインストールされている仮想マシンが、View 4.6 のシステム要件を満たしていることを確認します。

[\[View Transfer Server でサポートされるオペレーティングシステム \(P. 14\)\]](#) を参照してください。

- View Transfer Server インスタンスで Transfer Server リポジトリにローカル ファイル システムを使用している場合は、Transfer Server リポジトリのディレクトリをバックアップします。

手順

- 1 View Transfer Server を保守モードにします。
 - a View Administrator で、[View Configuration (View の構成)] - [Servers (サーバ)] に移動し、View Transfer Server を選択して、[Enter Maintenance Mode (保守モードにする)] をクリックします。
 - b ステータスが保守に変わるまで待ちます。

すべてのアクティブな転送が完了するまで、ステータスは Maintenance Pending (保守保留中) のままです。
- 2 View Transfer Server インスタンスをホストしている仮想マシンで、VMware View 4.6 Transfer Server のインストーラを実行します。

旧バージョンがすでにインストールされているかどうかはインストーラによって判別され、アップグレードが実行されます。新規インストールの場合は、インストーラに表示されるインストール オプションの数が少なくなります。
- 3 インストーラ ウィザードが閉じた後、VMware View Transfer Server サービスが再起動したことを確認します。
- 4 View Administrator で、[View Configuration (View の構成)] - [Servers (サーバ)] に移動し、View Transfer Server を選択してから、[Exit Maintenance Mode (保守モードを終了する)] をクリックします。

次に進む前に

View サーバ コンポーネントのアップグレードを続行します。第 5 章 [VMware View Server コンポーネントのアップグレード (P. 25)] を参照してください。

別のマシンでの View Transfer Server 4.6 へのアップグレード

アップグレードの一部として、View Transfer Server を新しいマシンに移行できます。たとえば、32 ビットの Windows 2003 Server マシンから 64 ビットの Windows 2008 Server マシンに View Transfer Server を移行できます。

開始する前に

- 新しい仮想マシンが View Transfer Server のインストールに対するシステム要件を満たしていることを確認します。『VMware View インストール ガイド』で View Transfer Server の要件のトピックを参照してください。
- この手順をいつ実行すべきかを判断します。利用可能なデスクトップ保守期間を選択します。1 インスタンスにつき 15 ~ 30 分を予定してください。
- インストーラの実行に使用する Windows Server でローカル管理者権限があることを確認します。
- 元の View Transfer Server インスタンスで Transfer Server リポジトリにネットワーク共有を使用していた場合は、ネットワーク共有のディレクトリへのパスを控えておきます。
View Administrator で、[View Configuration (View の構成)] - [Transfer Server Repository (Transfer Server リポジトリ)] に移動します。
- View Transfer Server をインストールして構成するための手順をよく理解してください。『VMware View インストール ガイド』を参照してください。
- 元の View Transfer Server インスタンスで Transfer Server リポジトリにローカル ファイル システムを使用していた場合は、Transfer Server リポジトリを新しい場所に移行するための手順をよく理解してください。『VMware View 管理者ガイド』を参照してください。

手順

- 1 新しい仮想マシンで、View Transfer Server をインストールします。
- 2 View Administrator で、新しい View Transfer Server インスタンスを追加します。
[View Configuration (View の構成)] - [Servers (サーバー)] に移動します。
- 3 Transfer Server リポジトリがネットワーク共有上にある場合は、この新しい View Transfer Server がネットワーク共有の Transfer Server リポジトリにアクセスできることを確認します。
- 4 Transfer Server リポジトリが元の View Transfer Server のローカル ファイル システム上にある場合は、リポジトリを新しい場所に移行します。
- 5 View Administrator で、元の View Transfer Server インスタンスを削除します。
- 6 必要に応じて、Windows の [Add/Remove Programs (プログラムの追加と削除)] ユーティリティを使用して、古いホストから View Transfer Server をアンインストールします。

次に進む前に

View サーバ コンポーネントのアップグレードを続行します。第 5 章 [VMware View Server コンポーネントのアップグレード (P. 25)] を参照してください。

View Composer のみのアップグレード

最初の保守期間中に、View Connection Server をアップグレードした後、vCenter Server と同じ仮想マシンまたは物理マシンでホストされている View Composer もアップグレードできます。

以下の手順では、最初の保守期間の間に実行する必要がある作業の概要について説明します。一部の作業の実行には、他のマニュアルに記載されている手順が必要になる場合があります。

開始する前に

- この手順をいつ実行すべきかを判断します。利用可能なデスクトップ保守期間を選択します。所要時間については、『vSphere アップグレード ガイド』を参照してください。
- [\[View Composer のみのアップグレードの準備 \(P. 23\)\]](#) に一覧表示されている作業を実行します。 .
- インストーラを実行してアップグレードを行なうために使用するホストで、管理者権限を持つドメイン ユーザー アカウントを持っていることを確認してください。
- VMware View 3.0 に含まれる View Composer 1.0 からアップグレードする場合は、インストーラ ウィザードで View Composer データベースをアップグレードするかどうかを決定します。ウィザードが終了したら、**SviConfig** コマンドライン ユティリティを実行してデータベースを手動でアップグレードし、アップグレードのログを作成することができます。

注意 View Composer 1.0 から View Composer 2.5 への直接アップグレードはサポートされていません。この情報は、データベーススキーマのアップグレードが必要な場合に発生する製品の動作を示すためにのみ提供されています。

手順

- 1 View Composer インスタンスをアップグレードします。
 - a View Composer がインストールされている仮想マシンまたは物理マシン上で、View Composer 2.6 のインストーラをダウンロードして実行します。View Composer 2.5 は VMware View 4.6 に付属するバージョンです。
インストーラは VMware の Web サイトからダウンロードできます。
 - b View Composer 1.0 からアップグレードする場合は、ウィザードを使用してデータベースをアップグレードするかどうかを尋ねるプロンプトが表示されたら、ウィザードを使用してデータベースをアップグレードするかどうかを指定します。

View Composer 1.1 以降からアップグレードする場合は、データベーススキーマのアップグレードが不要なため、プロンプトは表示されません。

「Database upgrade completed with warnings(データベースのアップグレードが警告で終了しました)」というメッセージを含むダイアログボックスが表示されたら、[OK] をクリックしてメッセージを無視してかまいません。
 - c ウィザードで View Composer のポート番号を要求されたら、ポート番号が **18443** に設定されていることを確認します。

vCenter Server 4 にはポート 8443 が必要なため、アップグレードを実行するとポート番号が以前の **8443** から **18443** に変更されます。

インストーラを実行する手順については、『VMware View インストール ガイド』を参照してください。
- 2 View Connection Server をホストしているマシンで、View Administrator にログインし、View Composer に使用されるポート番号を確認し、必要な場合は変更します。
 - a vCenter Server インスタンスの構成を編集して、View Composer のポートが **18443** に設定されていることを確認します。

このポート番号は、View Composer のアップグレード中に指定されるポート番号と一致している必要があります。
 - b vCenter Server のパスワードを入力します。
 - c [Enable View Composer (View Composer の有効化)] チェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。

- 3 親仮想マシン上で View Agent をアップグレードし、テスト用のデスクトップ プールを作成します。
 - a 親仮想マシンで View 4.6 View Agent のインストーラをダウンロードして実行します。
インストーラは VMware の Web サイトからダウンロードできます。
 - b この仮想マシンから、小さなリンク クローン デスクトップ プールを作成します。
 - c 作成したデスクトップ プールから仮想デスクトップをテストして、あらゆる使用方法のシナリオが正常に機能することを確認します。

たとえば、1 つの仮想デスクトップを含むデスクトップ プールを作成し、View Client を使用してそのデスクトップにログインできることを確認します。

他のデスクトップソースでは View Agent をアップグレードしないでください。

View Agent インストーラを実行してデスクトップ プールを作成する手順については、『VMware View 管理者ガイド』(View Administrator の [ヘルプ] ボタンをクリックして表示) を参照してください。
- 4 テスト デスクトップ プール内の仮想デスクトップが期待どおりに機能することを確認します。

View Composer インスタンスはアップグレードされます。既存の View 3.1.x、4.0.x、および 4.5.x View Client、および View 3.1.x、4.0.x、4.5.x Agent がインストールされているデスクトップソースとの下位互換性が確保されています。

次に進む前に

次の保守期間に、VMware View のアップグレードを続行します。[View Agent のアップグレード (P. 47)] を参照してください。

View Composer データベースの手動アップグレード

スキーマの更新が必要な場合、View Composer インストーラでデータベースをアップグレードする代わりに、手動でデータベースをアップグレードできます。アップグレード処理を細かく監視する必要がある場合、またはアップグレード作業を異なる役割の複数の IT 管理者に分担させる必要がある場合は、SviConfig コーティリティを使用できます。

View Composer をデータベース スキーマが更新されているバージョンにアップグレードすると、データベースをアップグレードするためにウィザードを使用するかどうかを尋ねるプロンプトがインストーラにより表示されます。インストーラのウィザードを使用しない場合は、SviConfig コーティリティを使用してデータベースをアップグレードし、既存のデータを移行する必要があります。

VMware View 3.1 に含まれる View Composer 1.1 またはそれ以降のバージョンからアップグレードする場合は、プロンプトは表示されません。

SviConfig コマンドライン コーティリティを使用すると、次のような利点があります。

- このコーティリティでは、結果コードが返され、アップグレードが失敗した場合のトラブルシューティングを容易にするデータベース アップグレードのログが作成されます。
- アップグレード作業を分割できます。vSphere または View Manager の管理者は、View Composer インストーラを実行してソフトウェアをアップグレードできます。データベース管理者 (DBA) は、SviConfig を使用して、View Composer データベースをアップグレードできます。
- ソフトウェアのアップグレードとデータベースのアップグレードは、異なる保守期間に行うことができます。たとえば、サイトのデータベース保守操作は週末のみに実行し、ソフトウェア保守作業は週の途中で実行することが可能です。

SviConfig の実行によるデータベースの手動アップグレード

SviConfig コマンドライン コーティリティを使用すると、View Composer データベースを View Composer ソフトウェアとは別にアップグレードできます。このコーティリティでは、アップグレードが失敗した場合のトラブルシューティングを容易にするログ ファイルも作成されます。

重要 SviConfig コーティリティは、熟練した View Composer 管理者のみが使用する必要があります。このコーティリティは、View Composer サービスに関連する問題を解決するためのものです。

開始する前に

View Composer データベースをバックアップします。手順については、データベース サーバのマニュアルを参照してください。

手順

- 1 vCenter Server の仮想マシンまたは物理マシンで、Windows コマンド プロンプトを開き、**SviConfig** 実行ファイルに移動します。

このファイルは、View Composer アプリケーションと同じ場所にあります。

オプション	アクション
32 ビット Windows	C:\Program Files\VMware\VMware View Composer\sviconfig.exe に移動します。
64 ビット Windows	C:\Program Files (86)\VMware\VMware View Composer\sviconfig.exe に移動します。

- 2 次のコマンドを入力して VMware View Composer サービスを停止します。

```
net stop svid
```

- 3 **SviConfig databaseupgrade** コマンドを実行します。

```
sviconfig -operation=databaseupgrade
-DsnName=<対象のデータベース ソース名 (DSN)>
-Username=<データベース管理者のユーザー名>
-Password=<データベース管理者のパスワード>
```

例：

```
sviconfig -operation=databaseupgrade -dsname=LinkedClone
-username=Admin -password=Pass
```

操作が成功すると、アップグレード手順を示す出力が表示されます。

```
Establishing database connection.
Database connection established successfully.
Upgrading database.
Load data from SVI_VC_CONFIG_ENTRY table.
Update SVI_DEPLOYMENT_GROUP table.
Update SVI_REPLICA table.
Update SVI_SIM_CLONE table.
SviConfig finished successfully.
Database is upgraded successfully.
```

- 4 次のコマンドを入力して VMware View Composer サービスを開始します。

```
net start svid
```

アップグレード処理の完全なログが作成されます。

オプション	説明
Windows Server 2003	C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\VMware\View Composer\Logs\vmware-sviconfig.log
Windows Server 2008	C:\Users\All Users\VMware\View Composer\vmware-sviconfig.log

次に進む前に

データベースのアップグレードが失敗する場合は、[\[View Composer データベース アップグレードの失敗のトラブルシューティング \(P.34\)\]](#) を参照してください。

結果コードが成功を意味する 0 以外の数字の場合は、[\[手動データベーススキーマ更新の結果コード\(P.34\)\]](#) を参照してください。

手動データベース スキーマ更新の結果コード

View Composer データベースを手動でアップグレードすると、`sviconfig databaseupgrade` コマンドで結果コードが表示されます。

表 5-1 に `sviconfig databaseupgrade` の結果コードを示します。

表 5-1. databaseupgrade コマンドの結果コード

コード	説明
0	操作は正常に終了しました。
1	指定された DSN が見つかりませんでした。
2	無効なデータベース管理者認証情報が指定されました。
3	データベースのドライバがサポートされていません。
4	予期しない問題が発生し、コマンドは完了できませんでした。
14	別のアプリケーションが View Composer サービスを使用しています。コマンドを実行する前にサービスをシャットダウンしてください。
15	復元処理の間に問題が発生しました。詳細については、画面のログ出力を参照してください。
17	データベースのデータをアップグレードできません。
18	データベース サーバに接続できません。

View Composer データベース アップグレードの失敗のトラブルシューティング

View Composer インストーラを使用して、または `SviConfig databaseupgrade` コマンドを実行して View Composer サービスをアップグレードするときに、View Composer データベースのアップグレード操作が失敗する場合があります。

問題

`SviConfig databaseupgrade` の操作でエラー コード 17 が表示される、または View Composer インストーラで次の警告メッセージが表示される。

Database upgrade completed with warnings(データベースのアップグレードが警告で終了しました)

原因

データベース アップグレード ソフトウェアは、vCenter Server に接続して、デスクトップについての追加データを取得します。デスクトップが使用できない場合、ESX ホストが実行されていない場合、または vCenter Server が使用できない場合は、データベースのアップグレードが失敗することがあります。

解決方法

- 1 詳細については、View Composer の SviConfig ログ ファイルを参照してください。

オプション	アクション
Windows Server 2003	C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\VMware\View Composer\Logs\vmware-sviconfig.log に移動します。
Windows Server 2008	C:\Users\All Users\VMware\View Composer\vmware-sviconfig.log に移動します。

アップグレード スクリプトは、失敗ごとにメッセージをログに記録します。

- 2 ログの記録を調べて、アップグレードに失敗したデスクトップを特定します。

オプション	アクション
デスクトップは存在するが使用できない。	デスクトップを再度使用できるようにします。 失敗の原因に応じて、ESX ホストまたは vCenter Server の再起動、あるいはその他のアクションが必要になる場合があります。
デスクトップが存在しない。	ログメッセージを無視します。 注意 管理者が vSphere でデスクトップ仮想マシンを直接削除した場合、削除したデスクトップが View Manager では存在するように表示される場合があります。

- 3 SviConfig databaseupgrade コマンドを再び実行します。

別のマシンでの View Composer 2.6 および vCenter Server 4.1 へのアップグレード

最初の保守期間中に、View Connection Server をアップグレードした後、同じ仮想マシンまたは物理マシン上でホストされている View Composer および VirtualCenter もアップグレードできます。



注意 View Composer および vCenter Server を新しいマシンに移行するときに、新しいマシンで同じホスト名と IP アドレスを使用するか、ホスト名または IP アドレス、あるいはその両方を変更するかを選択できます。

ただし、ホスト名または IP アドレスを変更した場合は、親仮想マシンを View 4.6 Agent にアップグレードしても、現行の View Composer デスクトップ プールを再構成できない場合があります。アップグレードの後で View Composer デスクトップ プールを再作成する場合にのみ、vCenter Server のホスト名または IP アドレスを変更してください。

View Composer を移行するための移行元マシンの準備

vSphere 4.1 の場合、vCenter Server は 64 ビット Windows オペレーティングシステムでのみサポートされます。現在の vCenter Server および View Composer サーバが 32 ビット Windows マシンにインストールされている場合は、アップグレードの一部として 64 ビット Windows マシンに移行する必要があります。

最初に移行元コンピュータで View Composer を 2.6 にアップグレードし、必要に応じて、VirtualCenter Server も vCenter Server 4.0 にアップグレードします。その後、View Composer 2.6 および vCenter Server 4.0 を移行先コンピュータに移行します。移行先コンピュータですべてが動作することを確認した後、vCenter Server 4.1 にアップグレードします。

以下の手順では、最初の保守期間の間に実行する必要がある作業の概要について説明します。一部の作業の実行には、他のマニュアルに記載されている手順が必要になる場合があります。

開始する前に

- この手順をいつ実行すべきかを判断します。利用可能なデスクトップ保守期間を選択します。所要時間については、『vSphere 4.1 アップグレード ガイド』を参照してください。
- [\[vSphere を含むアップグレードの準備 \(P. 22\)\]](#)に一覧表示されている作業を実行します。これらの作業には、View Composer データベースと vCenter Server データベースのバックアップ、および %ALLUSERSPROFILE%\Application Data\VMware\VMware VirtualCenter にある SSL 証明書フォルダのコピーが含まれます。
- インストーラを実行してアップグレードを行うために使用するホスト上に管理者権限のあるドメイン ユーザー アカウントを持っていることを確認します。
- Virtual Infrastructure コンポーネントを vSphere にアップグレードする場合は、vSphere の適切なライセンス キーがあることを確認します。
- 現在 VirtualCenter Server 2.5 を使用している場合は、『vSphere 4.0 アップグレード ガイド』をダウンロードして印刷してください。vCenter Server 4.1 にアップグレードする前に、vCenter Server 4.0 にアップグレードする必要があります。
- vSphere 4.1 データ移行ツールを使用して vCenter Server の移行を実行するかどうかを判断します。このツールについては、『vSphere 4.1 アップグレード ガイド』にある、別のマシンでの vCenter Server へのアップグレードおよび既存のデータベースのアップグレードに関する章を参照してください。

手順

- 1 vCenter Server および View Composer がインストールされている既存の仮想マシンまたは物理マシンで、View Composer 2.6 のインストーラをダウンロードして実行します。View Composer 2.5 は VMware View 4.6 に付属するバージョンです。
 - a VMware の Web サイトからインストーラをダウンロードします。
 - b ウィザードで View Composer のポート番号を要求されたら、ポート番号が **18443** に設定されていることを確認します。
View Composer 1.1 からアップグレードする場合は、vCenter Server 4 にはポート 8443 が必要なため、アップグレードを実行するとポート番号が以前の **8443** から **18443** に変更されます。
インストーラを実行する手順については、『VMware View インストール ガイド』を参照してください。
- 2 VirtualCenter Server 2.5 を実行している場合は、『vSphere 4.0 アップグレード ガイド』の説明に従って、VirtualCenter Server を vCenter Server 4.0 Update 2 以降にアップグレードします。
移行先マシンで vCenter Server 4.1 へのアップグレードを完了します。
- 3 データベースのツールを使用して、vCenter Server データベースおよび View Composer データベースの新しいバックアップを作成します。
- 4 vCenter Server をアップグレードした場合は、View Composer サービスを再起動します。
- 5 View Connection Server をホストしているマシンで、View Administrator にログインし、View Composer に使用されるポート番号を確認します。
 - a vCenter Server の構成を編集して、必要な場合は View Composer のポートを **18443** に変更します。
このポート番号は、View Composer のアップグレード中に指定されるポート番号と一致している必要があります。
 - b vCenter Server のパスワードを入力します。
 - c [Enable View Composer (View Composer の有効化)] チェック ボックスを選択し、[OK] をクリックします。
- 6 テスト用プールを作成し、View Composer が正常に動作していることを確認します。

- 7 View Composer が使用していた RSA キー コンテナを移行します。
 - a 移行元マシンで、コマンド プロンプトを開き、ディレクトリを `aspnet_regiis` プログラムが存在する場所に変更します。


```
cd %windir%\Microsoft.NET\Framework\v2.0.<xxxxx>
```

`aspnet_regiis` プログラムのコピーがコンピュータに複数存在する場合があります。`v2.0.<xxxxx>` ディレクトリのものを使用してください。
 - b `aspnet_regiis` コマンドを入力して、RSA キー ペアをローカル ファイルに保存します。


```
aspnet_regiis -px "SviKeyContainer" "keys.xml" -pri
```

このコマンドは、RSA の公開/秘密キー ペアを SviKeyContainer コンテナから `keys.xml` ファイルにエクスポートします。
 - c `keys.xml` ファイルを移行先マシンにコピーします。
- 8 移行元マシンで、VMware VirtualCenter Server サービスおよび VMware View Composer サービスを停止します。
- 9 新しい移行先マシンで同じ名前と IP アドレスを使用する場合は、移行先マシンで元の名前と IP アドレスを使用できるように、移行元マシンのホスト名と IP アドレスを変更します。
- 10 vSphere 4.1 データ移行ツールを使用する場合は、『vSphere 4.1 アップグレード ガイド』にある、別のマシンでの vCenter Server へのアップグレードおよび既存のデータベースのアップグレードに関する章の説明に従ってこのツールを実行します。

次に進む前に

vSphere 4.1 データ移行ツールを使用する場合は、『vSphere 4.1 アップグレード ガイド』にある、別のマシンでの vCenter Server へのアップグレードおよび既存のデータベースのアップグレードに関する章の説明に従って、vCenter Server データベースのバックアップと復元、および 64 ビット データソース名 (DSN) の作成の作業を完了します。次に、「[データ移行ツールを使用した新しいマシンへの移行 \(P. 37\)](#)」で説明されている手順を実行します。

vSphere 4.1 データ移行ツールを使用しない場合は、「[新しいマシンへの View Composer の手動による移行 \(P. 39\)](#)」で説明されている手順を実行します。

データ移行ツールを使用した新しいマシンへの移行

移行元マシンを準備したら、vCenter Server データ移行ツールを使用して、vCenter Server を移行先マシンに簡単に移動できます。

以下の手順では、vCenter Server データ移行ツールを使用する場合に実行する必要がある作業の概要を示します。一部の作業の実行には、『vSphere 4.1 アップグレード ガイド』および『VMware View インストール ガイド』に記載されている手順が必要です。



注意 この手順の間に、vCenter Server および View Composer をホストするマシンのホスト名または IP アドレスを変更した場合、親仮想マシンを View 4.6 Agent にアップグレードしても、現行の View Composer デスクトップ プールを再構成できない場合があります。アップグレードの後で View Composer デスクトップ プールを再作成する場合にのみ、vCenter Server のホスト名または IP アドレスを変更してください。

開始する前に

- 移行元マシンで必要な作業を実行します。「[View Composer を移行するための移行元マシンの準備 \(P. 35\)](#)」を参照してください。
- Microsoft .NET Framework および ASP.NET IIS 登録ツールが移行元と移行先のコンピュータにインストールされていることを確認します。RSA キーを移行するための Microsoft .NET Framework の準備については、『VMware View 管理者ガイド』のトピックを参照してください。

- インストーラを実行してアップグレードを行なうために使用するホストで、管理者権限を持つドメイン ユーザー アカウントを持っていることを確認してください。
- Virtual Infrastructure コンポーネントを vSphere にアップグレードする場合は、vSphere の適切なライセンス キーがあることを確認します。

手順

- 1 新しい移行先マシンで、ホスト名と IP アドレスを設定します。

ホスト名と IP アドレスを移行元マシンでもともと使用されていた名前と IP アドレスに設定するか、新しいホスト名または IP アドレス、あるいはその両方を使用するかを選択できます。

- 2 View Composer によって使用される RSA キー コンテナに移行します。

- a インストール先のマシンでコマンド プロンプトを開き、ディレクトリを **aspnet_regiis** プログラムが置かれているディレクトリに変更します。

```
cd %windir%\Microsoft.NET\Framework\v2.0.<xxxx>
```

コンピュータに **aspnet_regiis** プログラムのコピーが複数存在する場合があります。その場合は、**v2.0.<xxxx>** ディレクトリにあるものを使用してください。

- b **aspnet_regiis** コマンドを使用して RSA キー ペアをインポートします。

```
aspnet_regiis -pi "SviKeyContainer" "<path>\keys.xml"
```

このコマンドの **<path>\keys.xml** は、**keys.xml** ファイルへの完全なパスです。

キー ペア データがローカル キー コンテナにインポートされます。

- 3 『vSphere 4.1 アップグレード ガイド』に記載されている、vCenter Server の構成の復元および新しいマシンへの vCenter Server のインストールに関する作業を実行します。

データ移行ツールは、バンドルされている SQL Server 2005 Express データベース サーバを移行し（使用している場合）、データベース用の 64 ビット DSN を作成します。別のデータベースを使用している場合のアップグレード方法については、以下で説明します。この手順では、SSL 証明書フォルダも新しいマシンにコピーします。

データ移行ツールは、View Composer データベースの復元または DSN の作成は行いません。

- 4 ローカルのデータベース サーバを使用している場合は、ベンダーのデータベース ツールを使用して vCenter Server データベースおよび View Composer データベースを復元または接続します。

- 5 vCenter Server 用に 64 ビットのドメイン サーバ名 (DSN)、および View Composer 用に 64 ビットの DSN を作成します。

手順については、『vSphere 4.1 Upgrade Guide』および『VMware View インストール』ドキュメントを参照してください。

- 6 View Composer 2.6 のインストーラ (VMware View 4.6 に付属のバージョン) をダウンロードして実行します。

インストーラは VMware の Web サイトからダウンロードできます。

- 7 インストーラ ウィザードが終了した後で、View Composer サービスが開始されることを確認します。
- 8 移行先マシンのホスト名または IP アドレスを変更した場合は、View Connection Server をホストするマシンで、View Administrator にログインし、vCenter Server の構成設定を更新します。
 - a サーバアドレスが正しいホスト名を使用するように、vCenter Server の設定を編集します。
ホスト名を変更した場合は、新しい名前を入力します。このフィールドには IP アドレスも入力できますが、ホスト名を使用することをお勧めします。
 - b vCenter Server のパスワードを入力します。
 - c [Enable View Composer (View Composer の有効化)] チェック ボックスを選択し、[OK] をクリックします。
View Composer を有効にする前に、新しい vCenter Server 設定を適用します。
 - d 数分してから、[Enable View Composer (View Composer の有効化)] を選択するために vCenter Server 設定を再び編集してから、[OK] をクリックします。

View Composer および vCenter Server インスタンスはアップグレードされます。既存の View 3.1.x、4.0.x、および 4.5.x View Client、および View 4.0.x または 4.5.x Agent がインストールされているデスクトップソースとの下位互換性が確保されています。

次に進む前に

テスト用のデスクトップ プールを作成し、テスト用プールの仮想デスクトップが意図したとおりに動作することを確認します。

vCenter Server をアップグレードした場合は、『vSphere 4.1 Upgrade Guide』に説明されているアップグレード後のタスクを行ないます。

次の保守期間に、VMware View のアップグレードを続行します。第6章「ESX ホストおよび仮想マシンのアップグレード (P. 43)」を参照してください。

新しいマシンへの View Composer の手動による移行

移行元マシンを準備したら、移行先マシンでいくつかの作業を実行する必要があります。vCenter Server データ移行ツールを使用しない場合は、必要な作業を手動で実行できます。

vCenter Server データ移行ツールを使用している場合、一部の手順は自動的に実行されます。アップグレードを段階的に実行し、すべての手順でアップグレードが正常に行われていることを確認できるようにする場合は、ツールを使用しなくてもかまいません。この手順を実行する代わりにデータ移行ツールを使用する場合は、「[データ移行ツールを使用した新しいマシンへの移行 \(P. 37\)](#)」を参照してください。



注意 この手順の間に、vCenter Server および View Composer をホストするマシンのホスト名または IP アドレスを変更した場合、親仮想マシンを View 4.6 Agent にアップグレードした後であっても、通常の View Composer デスクトップ プールを再構成できない場合があります。vCenter Server のホスト名または IP アドレスは、アップグレードの後で View Composer デスクトップ プールを再作成する場合にのみ変更してください。

開始する前に

- 移行元マシンで必要な作業を実行します。「[View Composer を移行するための移行元マシンの準備 \(P. 35\)](#)」を参照してください。
- Microsoft .NET Framework および ASP.NET IIS 登録ツールが移行元と移行先のコンピュータにインストールされていることを確認します。RSA キーを移行するための Microsoft .NET Framework の準備については、『VMware View 管理』ドキュメントのトピックを参照してください。
- インストーラを実行してアップグレードを行なうために使用するホストで、管理者権限を持つドメイン ユーザー アカウントを持っていることを確認してください。

- Virtual Infrastructure コンポーネントを vSphere にアップグレードする場合は、vSphere の適切なライセンス キーがあることを確認します。
- 『vSphere 4.0 アップグレード ガイド』 および 『vSphere 4.1 アップグレード ガイド』 を印刷するか、参照できるようにします。

手順

- 1 新しい移行先マシンで、ホスト名と IP アドレスを設定します。

ホスト名と IP アドレスは、移行元マシンでもともと使用されていた名前と IP アドレスに設定することも、新しいホスト名と IP アドレス（一方または両方）にすることもできます。

- 2 View Composer によって使用される RSA キー コンテナに移行します。

- a インストール先のマシンでコマンド プロンプトを開き、ディレクトリを **aspnet_regiis** プログラムが置かれているディレクトリに変更します。

```
cd %windir%\Microsoft.NET\Framework\v2.0.<xxxx>
```

コンピュータに **aspnet_regiis** プログラムのコピーが複数存在する場合があります。その場合は、**v2.0.<xxxx>** ディレクトリにあるものを使用してください。

- b **aspnet_regiis** コマンドを使用して RSA キー ペアをインポートします。

```
aspnet_regiis -pi "SviKeyContainer" "<path>\keys.xml"
```

このコマンドの **<path>\keys.xml** は、**keys.xml** ファイルへの完全なパスです。

キー ペア データがローカル キー コンテナにインポートされます。

- 3 SSL 証明書フォルダを移行先マシンにコピーします。

オプション	アクション
Windows 2003 Server	%ALLUSERSPROFILE%\Application Data\VMware\VMware VirtualCenter にフォルダをコピーします。
Windows 2008 Server	%ALLUSERSPROFILE%\VMware\VMware VirtualCenter にフォルダをコピーします。

- 4 ローカルのデータベース サーバを使用している場合は、ベンダーのデータベース ツールを使用して vCenter Server データベースおよび View Composer データベースを復元または接続します。

- 5 vCenter Server 4.0 データベース用の 32 ビット DSN を作成します。

詳細については、『vSphere 4.0 アップグレード ガイド』で 64 ビット オペレーティング システムでの 32 ビット DSN の作成に関するトピックを参照してください。

移行先マシンに 4.1 ではなく vCenter Server 4.0 をインストールする場合は、この 32 ビット DSN が必要です。データ移行ツールは移行先マシンに vCenter Server 4.1 をインストールします。

- 6 vCenter Server 用に 64 ビットのドメイン サーバ名 (DSN)、および View Composer 用に 64 ビットの DSN を作成します。

手順については、『vSphere 4.1 Upgrade Guide』 および 『VMware View インストール』 ドキュメントを参照してください。

- 7 vCenter Server 4.0 Update 2 以降をインストールします。

方法については、『vSphere 4.0 アップグレード ガイド』を参照してください。インストール ウィザードでは、先に作成した 32 ビット DNS を選択します。

- 8 View Composer 2.6 のインストーラ (VMware View 4.6 に付属のバージョン) をダウンロードして実行します。

インストーラは VMware の Web サイトからダウンロードできます。

- 9 テスト用のデスクトップ プールを作成し、テスト用プールの仮想デスクトップが意図したとおりに動作することを確認します。
- 10 『vSphere 4.1 アップグレード ガイド』にある vCenter Server 4.1 へのアップグレードに関する章の説明に従って、vCenter Server 4.0 を 4.1 にアップグレードします。
- 11 View Composer サービスを再起動します。
- 12 移行先マシンのホスト名または IP アドレスを変更した場合は、View Connection Server をホストするマシンで、View Administrator にログインし、vCenter Server の構成設定を更新します。
 - a サーバアドレスが正しいホスト名を使用するように、vCenter Server の設定を編集します。

ホスト名を変更した場合は、新しい名前を入力します。このフィールドには IP アドレスも入力できますが、ホスト名を使用することをお勧めします。
 - b vCenter Server のパスワードを入力します。
 - c [View Composer の有効化] チェック ボックスを選択し、[OK] をクリックします。

View Composer を有効にする前に、新しい vCenter Server の設定を適用します。
 - d しばらくしてから、vCenter Server の設定を再び編集し、[View Composer の有効化] を選択して、[OK] をクリックします。

View Composer および vCenter Server インスタンスはアップグレードされます。既存の View 3.1.x、4.0.x、および 4.5.x View Client、および View 4.0.x または 4.5.x Agent がインストールされているデスクトップソースとの下位互換性が確保されています。

次に進む前に

vCenter Server をアップグレードした場合は、『vSphere 4.1 Upgrade Guide』に説明されているアップグレード後のタスクを行ないます。

次の保守期間に、VMware View のアップグレードを続行します。第 6 章「ESX ホストおよび仮想マシンのアップグレード (P. 43)」を参照してください。

ESX ホストおよび仮想マシンのアップグレード

6

ESX ホストおよび仮想マシンを vSphere にアップグレードする作業は、VMware View アップグレードのこの中間段階で最も時間のかかる部分です。

ESX 3.5 からアップグレードする場合は、仮想マシンの仮想ハードウェアのバージョンのアップグレードが含まれるため、ESX 4.x からのアップグレードよりも手順が多くなります。

この章では次のトピックについて説明します。

- [ESX 3.5 ホストとその仮想マシンのアップグレード \(P. 43\)](#)
- [ESX 4.0 ホストとその仮想マシンのアップグレード \(P. 45\)](#)

ESX 3.5 ホストとその仮想マシンのアップグレード

ESX 3.5 ホストおよび仮想マシンのアップグレードには、ホストのアップグレード、仮想マシンの仮想ハードウェアのバージョンのアップグレード、および仮想マシンの VMware Tools のバージョンのアップグレードが含まれます。View Composer を使用する場合は、vSphere モードの有効化がアップグレードに含まれます。

以下の手順では、2 番目およびそれ以降の保守期間の間に実行する必要がある作業の概要について説明します。一部の作業の実行には、『vSphere アップグレード ガイド』および『VMware View 管理者ガイド』に記載されている手順が必要になる場合があります。

開始する前に

- [「レプリカ グループ内の View Connection Server のアップグレード \(P. 25\)」](#) で説明した手順を実行します。
- 『vSphere アップグレード ガイド』に一覧表示されている ESX の準備作業を実行します。
- Virtual Infrastructure コンポーネントを vSphere にアップグレードする場合は、vSphere の適切なライセンス キーがあることを確認します。
- すべての ESX ホストがクラスタのメンバーであることを確認します。スタンドアロンの ESX ホストをアップグレードする場合、単一ホストのクラスタに配置します。ESX ホストがクラスタ内にはない場合は、View Composer に対して vSphere モードを有効にできないことがあります。

手順

- 1 ESX ホストを 1 クラスタずつ vSphere 4.1 にアップグレードします。

手順については、『vSphere アップグレード ガイド』を参照してください。クラスタが多数ある場合は、この手順を完了するために複数の保守期間が必要となることがあります。ESX ホストのアップグレードでは、次の作業を実行します。

- a VMotion を使用して、仮想マシンを ESX ホストの外に移動します。
- b ESX ホストを保守モードにします。
- c ESX のアップグレードを実行します。
- d VMotion を使用して、仮想マシンを ESX ホスト上に戻します。
- e ESX ホストのアップグレード後の作業を実行します。

前提条件で示したように、すべての ESX ホストはクラスタのメンバーである必要があります。

- 2 アップグレードした ESX ホストが自動的に vCenter に再接続されない場合は、vSphere Client を使用して ESX ホストを vCenter Server に再接続します。
- 3 View Composer を使用する場合は、すべての ESX ホストをアップグレードした後、vCenter Server ホストで View Composer サービスを再起動します。
- 4 View Composer を使用する場合は、vSphere モードをオンにします。

vSphere によって新しい API が使用され、パフォーマンスの向上が達成されます。

- a クラスタ内のすべての ESX ホストで vSphere 4.1 が実行されていることを確認します。
- b View Connection Server にログインし、[Use vSphere mode for View Composer (View Composer に vSphere モードを使用)] というデスクトップ プール設定をオンにします。
方法については、『VMware View 管理者ガイド』を参照してください。
- c 親仮想マシンで、View Agent を 4.5 にアップグレードし、テスト用のデスクトップ プールを作成し、vSphere モードが使用されていることを確認します。

この新しいテスト デスクトップ プールでは、新しい View Composer API が使用されるため、レプリカからソース リンク クローンが作成されません。vCenter Server を使用して仮想マシンの作成を監視すると、レプリカが **source-1c** 仮想マシンではなく親から作成されることがわかります。

- 5 すべての親仮想マシン上の VMware Tools および仮想ハードウェアと、仮想マシン テンプレート、および View Connection Server インスタンスなどの View サーバ コンポーネントをホストしている仮想マシンをアップグレードします。
 - a 『vSphere アップグレード ガイド』の説明に従って、ダウンタイムの計画を立てます。
各仮想マシンを 3 回ずつ再起動する必要があります。
 - b VMware Tools をアップデートし、仮想マシンのハードウェアをバージョン 7 にアップグレードします。
vSphere Update Manager を使用すると、特定のフォルダ内にあるすべての仮想マシンで、VMware Tools の次に仮想マシンのハードウェアバージョンという正しい順序でアップデートを実行できます。『vSphere アップグレード ガイド』を参照してください。

- 6 フル クローン デスクトップを使用する場合は、各仮想マシン上で VMware Tools と仮想ハードウェアをバージョン 7 にアップグレードします。

vSphere Update Manager を使用すると、特定のフォルダ内にあるすべての仮想マシンで、VMware Tools の次に仮想マシンのハードウェアバージョンという正しい順序でアップデートを実行できます。『vSphere アップグレード ガイド』を参照してください。

次に進む前に

View Agent をアップグレードします。[[View Agent のアップグレード \(P. 47\)](#)] を参照してください。

ESX 4.0 ホストとその仮想マシンのアップグレード

ESX 4.0 ホストおよびその仮想マシンのアップグレードは、ESX 3.5 からのアップグレードより少ない手順で済みます。

以下の手順では、2 番目およびそれ以降の保守期間の間に実行する必要がある作業の概要について説明します。一部の作業の実行には、『vSphere アップグレード ガイド』および『VMware View 管理者ガイド』に記載されている手順が必要になる場合があります。

開始する前に

次の準備作業を実行します。

- 「[レプリカ グループ内の View Connection Server のアップグレード \(P. 25\)](#)」で説明した手順を実行します。
- 『vSphere アップグレード ガイド』に一覧表示されている ESX の準備作業を実行します。

手順

- 1 ESX ホストを 1 クラスタずつ vSphere 4.1 にアップグレードします。

手順については、『vSphere アップグレード ガイド』を参照してください。クラスタが多数ある場合は、この手順を完了するために複数の保守期間が必要となることがあります。ESX ホストのアップグレードでは、次の作業を実行します。

- a VMotion を使用して、仮想マシンを ESX ホストの外に移動します。
- b ESX ホストを保守モードにします。
- c ESX のアップグレードを実行します。
- d VMotion を使用して、仮想マシンを ESX ホスト上に戻します。
- e ESX ホストのアップグレード後の作業を実行します。

前提条件で示したように、すべての ESX ホストはクラスタのメンバーである必要があります。

- 2 アップグレードした ESX ホストが自動的に vCenter に再接続されない場合は、vSphere Client を使用して ESX ホストを vCenter Server に再接続します。
- 3 View Composer を使用する場合は、すべての ESX ホストをアップグレードした後、vCenter Server ホストで View Composer サービスを再起動します。
- 4 すべての親仮想マシン上の VMware Tools、仮想マシン テンプレート、および View Connection Server インスタンスなどの View サーバ コンポーネントをホストしている仮想マシンをアップグレードします。
 - a 『vSphere アップグレード ガイド』の説明に従って、ダウンタイムの計画を立てます。
各仮想マシンを 3 回ずつ再起動する必要があります。
 - b VMware Tools を更新します。
詳細については、『vSphere アップグレード ガイド』を参照してください。
- 5 フル クローン デスクトップを使用する場合は、各仮想マシン上で VMware Tools と仮想ハードウェアをバージョン 7 にアップグレードします。

vSphere Update Manager を使用すると、特定のフォルダ内にあるすべての仮想マシンで、VMware Tools の次に仮想マシンのハードウェア バージョンという正しい順序でアップデートを実行できます。『vSphere アップグレード ガイド』を参照してください。

次に進む前に

View Agent をアップグレードします。[View Agent のアップグレード \(P. 47\)](#) を参照してください。

VMware View のデスクトップとクライアントのアップグレード

7

アップグレードできるデスクトップおよびクライアント コンポーネントとして、View デスクトップのオペレーティングシステム内で実行している View Client for Windows、View Client for Mac、VMware パートナーから提供されるシンクライアント、および View Agent があります。

この章では次のトピックについて説明します。

- [View Agent のアップグレード \(P. 47\)](#)
- [View Composer デスクトップ プールのアップグレード \(P. 48\)](#)
- [View Client のアップグレード \(P. 49\)](#)
- [View Local Mode Client のアップグレード \(P. 50\)](#)
- [View Client with Local Mode への Offline Desktop クライアントのアップグレード \(P. 51\)](#)

View Agent のアップグレード

View Agent のアップグレード方法は、デスクトップソースの種類によって決まります。

ここでは、デスクトップソースとして使用されるさまざまな仮想マシンで View Agent をアップグレードするために実行する必要のある作業の概要について説明します。一部の作業の実行には、vSphere Client のオンライン ヘルプまたは『VMware View 管理者ガイド』（View Administrator で [ヘルプ] ボタンをクリックして表示）に記載されている手順が必要になる場合があります。

重要 View Agent を 4.5 より前のバージョンからアップグレードする場合、グループ ポリシー オブジェクト (GPO) を使用して Windows ファイアウォールを無効にしてあると、インストーラで次のいずれかのエラーが発生し、アップグレードはロールバックされます。

- **エラー 28014.**ファイアウォールを閉じることができません。
- **警告 28013** ファイアウォールを開くことができません。
- **内部エラー 28051** 共有アクセス。

エラー 28014 または警告 28013 が発生する場合は、GPO を使用してファイアウォール サービスを有効にし、インストーラを再実行してエージェントをアップグレードする必要があります。内部エラー 28051 が発生する場合は、エラー メッセージ ボックスで [OK] をクリックしてアップグレードを続行します。

開始する前に

次の準備作業を実行します。

- ESX ホストおよび仮想マシンをアップグレードする場合は、[第 6 章「ESX ホストおよび仮想マシンのアップグレード \(P. 43\)」](#)で説明した手順を実行します。
- インストーラを実行してアップグレードを行なうために使用するホストで、管理者権限を持つドメイン ユーザー アカウントを持っていることを確認してください。

手順

- 1 親仮想マシンおよび仮想マシン テンプレート上で、View Agent 4.6 のインストーラをダウンロードして実行します。
インストーラは VMware の Web サイトからダウンロードできます。View Agent インストーラを実行する手順については、『[VMware View 管理者ガイド](#)』を参照してください。
- 2 アップグレードした親仮想マシンごとにスナップショットを作成します。これは、View Composer でリンク クローン デスクトップ プールを作成するために使用します。

読み取り専用プールの場合、プールを作成するために新しいスナップショットを使用します。通常のプールの場合は、プール内のすべての仮想マシンを再構成するために新しいスナップショットを使用します。

スナップショットの作成手順については、vSphere Client のオンライン ヘルプを参照してください。
- 3 フル クローン デスクトップを使用する場合、あるいは個別のデスクトップまたは手動プールの一部として追加した他の仮想マシンを使用する場合は、ソフトウェアのアップグレードに通常使用している任意の他社製ツールを使用して、View Agent をアップグレードしてください。

View 3.1.x または 4.0.x の展開では個別のデスクトップと呼ばれた View デスクトップは、View 4.5 以降のバージョンでは手動プールに追加されます。個別のデスクトップの場合、手動プールにはデスクトップが 1 つだけ含まれます。
- 4 Windows Terminal Server、物理 PC、またはブレード PC をデスクトップ ソースとして使用する場合は、その物理マシン上で View Agent 4.6 のインストーラをダウンロードして実行します。

インストーラは VMware の Web サイトからダウンロードできます。
- 5 アップグレードされていない View Client を使用して、アップグレード済みの View 4.6 デスクトップ ソースに旧 View Client ソフトウェアでログインできることを確認します。

次に進む前に

View Composer デスクトップ プールを使用している場合は、プールを再構成または再作成します。[「View Composer デスクトップ プールのアップグレード \(P. 48\)」](#)を参照してください。

View Client をアップグレードします。[「View Client のアップグレード \(P. 49\)」](#) および [「View Local Mode Client のアップグレード \(P. 50\)」](#)を参照してください。

View Composer デスクトップ プールのアップグレード

VMware View のアップグレードの最終段階には、その一環として View Composer デスクトップ プールのアップグレードが含まれます。

View Composer で作成されたプールをアップグレードする場合は、親仮想マシンで View Agent をアップグレードした後で取得したスナップショットを使用する必要があります。View Agent 3.1.x および 4.0.x は、View Composer 2.5 以降との互換性がありません。そのため、View 4.5 以降に固有の機能を使用するプールを作成、再構成、または更新するときは、View 4.0.x または 3.1.x のマスタ イメージまたはスナップショットは使用できません。このような View 4.5 以降の機能としては、システム廃棄可能ディスク (SDD) の使用、Sysprep カスタマイズ仕様の使用、以前にアーカイブしたユーザー データ ディスク (UDD) の既存デスクトップへの接続などがあります。

開始する前に

- 「[レプリカ グループ内の View Connection Server のアップグレード \(P. 25\)](#)」 で説明した手順を実行します。
- 「[別のマシンでの View Composer 2.6 および vCenter Server 4.1 へのアップグレード \(P. 35\)](#)」 または 「[View Composer のみのアップグレード \(P. 30\)](#)」 で説明した手順を実行します。
- ESX/ESXi ホストおよび仮想マシンもアップグレードする場合は、[第 6 章「ESX ホストおよび仮想マシンのアップグレード \(P. 43\)」](#) で説明した手順を実行します。
- 親仮想マシンのエージェントをアップグレードする場合は、[「View Agent のアップグレード \(P. 47\)」](#) で説明した手順を実行します。
- デスクトップ プールの再作成および再構成によってストレージ アレイおよび ESX/ESXi ホストが埋め尽くされないように、保守期間を慎重に計画してください。

手順

- 1 アップグレードの準備作業で新規仮想マシンのプロビジョニングを無効にした場合は、再度プロビジョニングを有効にします。
- 2 親仮想マシンのアップグレード後に作成したスナップショットを使用して、デスクトップ プールを再作成または再構築します。

オプション	アクション
読み取り専用プール	プールから View 3.1.x、4.0.x、および 4.5.x 仮想デスクトップを削除して、デスクトッププールを再作成します。
通常のプール	デスクトップ プールを再構築します。

- 3 アップグレードの準備作業でプールの [ログオフ時に OS ディスクを更新] 設定を [更新しない] に変更した場合は、適切な更新ポリシーに合わせて設定を元に戻します。
- 4 いずれかのデスクトップ プールについて更新または再構成の操作をキャンセルした場合は、再度作業をスケジュールします。

次に進む前に

View Client をアップグレードします。[「View Client のアップグレード \(P. 49\)」](#) および [「View Local Mode Client のアップグレード \(P. 50\)」](#) を参照してください。

View Client のアップグレード

VMware View のアップグレードの最終段階では、View Client をアップグレードし、シンクライアント デバイスを使用する場合にそのファームウェアをアップグレードする作業を実行します。

注意 この手順では、リモート デスクトップを使用する View Client のアップグレード方法を説明します。View 4.5 Client with Local Mode、または View 4.0.x または 3.1.x Offline Client からアップグレードする場合は、[「View Local Mode Client のアップグレード \(P. 50\)」](#) または [「View Client with Local Mode への Offline Desktop クライアントのアップグレード \(P. 51\)」](#) を参照してください。

開始する前に

- View Connection Server、View Transfer Server、View Composer など、サーバコンポーネントのアップグレード手順を完了します。[第 5 章 \[VMware View Server コンポーネントのアップグレード \(P. 25\)\]](#) を参照してください。
- インストーラを実行してアップグレードを行うために使用するホスト上に管理者権限のあるドメイン ユーザー アカウントを持っていることを確認します。
- サポートされているオペレーティングシステムがクライアントシステムで実行されていることを確認します。PCoIP 表示プロトコルを使用する予定の場合は、クライアントが追加ハードウェア要件を満たしていることを確認します。[\[View Client および View Client with Local Mode でサポートされるオペレーティング システム \(P. 16\)\]](#) を参照してください。

手順

- 1 エンドユーザーに、View 4.6 Client にアップグレードしてもらいます。

オプション	アクション
ネイティブクライアント	View 4.6 Client をダウンロードしてエンドユーザーに送信するか、Web サイトに掲示した後、インストーラをダウンロードして実行するようにエンドユーザーに依頼します。
View Portal	Windows または Mac システムのエンドユーザーの場合、エンドユーザーが次回 View Portal に接続したとき、新しいクライアント インストーラをダウンロードして実行するように要求されることを通知します。 既存の View Client でスマートカードが必要であり、エンドユーザーが Internet Explorer を使用して View Portal に接続している場合は、View Portal でクライアントのバージョンが確認される前に、スマートカードの挿入を求められます。エンドユーザーは、スマートカードを挿入しても、[キャンセル] をクリックしてもかまいません。結果は同じです。View Portal はバージョンを確認し、新しいクライアント インストーラのダウンロードをエンドユーザーに求めます。 Linux システムのエンドユーザーの場合、View Portal では View デスクトップに接続できません。
シンクライアント	シンクライアントのファームウェアをアップグレードし、エンドユーザーのクライアント デバイスに新しい View Client をインストールします。

ネイティブクライアントおよびシンクライアントの場合は、View Client のインストーラを VMware の Web サイトからダウンロードできます。

- 2 エンドユーザーが各自の View デスクトップにログインおよび接続できることを確認してもらってください。

次に進む前に

View 3.1.x または 4.0.x の Offline Desktop を使用しているエンドユーザーがいる場合は、これらのクライアントをアップグレードします。[\[View Client with Local Mode への Offline Desktop クライアントのアップグレード \(P. 51\)\]](#) を参照してください。エンドユーザーが View 4.5.x Client with Local Mode を使用している場合は、それらのクライアントをアップグレードします。[\[View Local Mode Client のアップグレード \(P. 50\)\]](#) を参照してください。

View Local Mode Client のアップグレード

View 4.5 Client with Local Mode のアップグレードは、View Client for Windows のアップグレードとよく似ています。クライアントシステムで新規インストールを実行します。

注意 この手順では、View 4.5 Client with Local Mode からのアップグレード方法を説明します。View 3.1.x または 4.0.x Offline Client からアップグレードする場合は、[\[View Client with Local Mode への Offline Desktop クライアントのアップグレード \(P. 51\)\]](#) を参照してください。

開始する前に

- インストーラを実行してアップグレードを行うために使用するクライアントシステム上に、管理者権限のあるローカル ユーザー アカウントまたは管理者権限のあるドメイン ユーザー アカウントがあることを確認します。
- クライアント コンピュータのオペレーティング システムがサポートされていること、およびエンド ユーザーがダウンロードしてローカルで実行する予定の View デスクトップにクライアントシステムが対応できることを確認します。[「View Client および View Client with Local Mode でサポートされるオペレーティング システム \(P. 16\)」](#) および [「ローカル モード デスクトップのハードウェア要件 \(P. 17\)」](#) を参照してください。
- ローカル デスクトップ オペレーティング システムにインストールされている View Agent ソフトウェアのアップグレード戦略を決定します。1つの戦略は、エンドユーザーがローカル デスクトップにチェックインしてもらい、データセンターの仮想マシンで View Agent をアップグレードする方法です。もう1つの戦略は、クライアントシステムのローカル View デスクトップ内で View Agent をアップグレードする方法です。ソフトウェアアップグレードで通常使用している他社製ツールを使用できます。

手順

- 1 データセンターの仮想マシンで View Agent をアップグレードする場合は、エンド ユーザーにローカル モード デスクトップをチェックインしてもらいます。
- 2 クライアントシステムで、View 4.6 Client with Local Mode インストーラを実行します。
 エンド ユーザーにコンピュータに必要な管理者権限がある場合、エンド ユーザーはいくつかの方法でインストーラを入手できます。
 - VMware の Web サイトからインストーラをダウンロードし、それをエンド ユーザーに送ります。
 - インストーラを会社の Web サイトに置き、エンド ユーザーにダウンロードしてもらいます。
 - エンドユーザーに View Portal の URL を伝え、View Portal からインストーラをダウンロードしてもらいます。
- 3 エンドユーザーに、ローカル View デスクトップにログインおよび接続できることを確認してもらいます。

次に進む前に

エンドユーザーがローカル モード デスクトップにチェックインして、View Agent ソフトウェアをデータセンターでアップグレードする場合は、View Agent のアップグレードが完了した後は、アップグレードされた新しい View デスクトップをローカル システムにチェックアウトするようにエンド ユーザーに伝えてください。

ローカル デスクトップ内の View Agent ソフトウェアがまだ View Agent 4.6 にアップグレードされていない場合は、データセンターの仮想マシンまたはローカル クライアントシステムのどちらかで View Agent をアップグレードしてください。

View Client with Local Mode への Offline Desktop クライアントのアップグレード

VMware View 3.1.x および 4.0.x の試験的機能であった Offline Desktop は、View 4.6 の完全にサポートされている View Client with Local Mode にアップグレードできます。

注意 この手順では、View 3.1.x または 4.0.x View Offline Client からのアップグレード方法を説明します。View 4.5 Client with Local Mode からアップグレードする場合は、[「View Local Mode Client のアップグレード \(P. 50\)」](#) を参照してください。

開始する前に

- インストーラを実行してアップグレードを行うために使用するクライアント システム上に、管理者権限のあるローカル ユーザー アカウントまたは管理者権限のあるドメイン ユーザー アカウントがあることを確認します。
- クライアント コンピュータのオペレーティング システムがサポートされていること、およびエンド ユーザーがダウンロードしてローカルで実行する予定の View デスクトップにクライアント システムが対応できることを確認します。[View Client および View Client with Local Mode でサポートされるオペレーティング システム (P. 16)] および [ローカル モード デスクトップのハードウェア要件 (P. 17)] を参照してください。 .

手順

- 1 エンド ユーザーに、View 3.1.x または 4.0.x オフライン デスクトップをチェックインしてもらいます。
- 2 エンド ユーザーに、オフライン デスクトップを構成するファイルが含まれるフォルダを削除してもらいます。

デスクトップ オペレーティング システム	チェックアウト ディレクトリ
Windows 7 および Windows Vista のデフォルト ディレクトリ	C:\Users\<ユーザー名>\AppData\Local\VMware\VDM\Offline Desktops\<プール表示名>
Windows XP のデフォルト ディレクトリ	C:\Documents and Settings\<ユーザー名>\Local Settings\Application Data\VMware\VDM\Offline Desktops\<プール表示名>

- 3 アップグレードする必要があるすべてのコンポーネントをアップグレードします。
View Connection Server、View Composer、vCenter Server、ESX ホスト、仮想マシン、仮想マシンの VMware Tools、仮想マシンの View Agent などがあります。
- 4 『VMware View 4.6 インストール ガイド』の説明に従って、View Transfer Server インスタンスをインストールして構成します。
VMware View 4.5 以降のバージョンでは、View Transfer Server コンポーネントは、チェックイン、チェックアウト、レプリケーション、システム イメージ プロビジョニングの各操作の間に、ローカル クライアント デバイスとデータセンターの間でデータを転送します。
- 5 クライアント システムで、View 4.6 Client with Local Mode インストーラを実行します。
エンド ユーザーにコンピュータに必要な管理者権限がある場合、エンド ユーザーはいくつかの方法でインストーラを入手できます。
 - VMware の Web サイトからインストーラをダウンロードし、それをエンド ユーザーに送ります。
 - インストーラを会社の Web サイトに置き、エンド ユーザーにダウンロードしてもらいます。
 - エンド ユーザーに View Portal の URL を伝え、View Portal からインストーラをダウンロードしてもらいます。
- 6 エンド ユーザーに、アップグレード後の View デスクトップにログインおよび接続できることを確認してもらいます。

vSphere コンポーネントの個別のアップグレード

8

VMware View コンポーネントとは別に vSphere コンポーネントを個別にアップグレードする場合、一部の View データをバックアップし、一部の View ソフトウェアを再インストールする必要があります。

VMware View コンポーネントと vSphere コンポーネントの統合アップグレードを実行する代わりに、最初にすべての View コンポーネントをアップグレードしてから vSphere コンポーネントをアップグレードしたり、その逆の順序でアップグレードすることができます。vSphere の新しいバージョンまたはアップデートがリリースされたときに、vSphere コンポーネントのみをアップグレードすることもできます。

View コンポーネントとは別に vSphere コンポーネントをアップグレードする場合、『vSphere アップグレード ガイド』の手順に従う以外に、次の作業を実行する必要があります。

- 1 vCenter Server をアップグレードする前に、vCenter Server または VirtualCenter データベースと View Composer データベースをバックアップします。
- 2 vCenter Server をアップグレードする前に、**vdmexport.exe** ユーティリティを使用して、View Connection Server インスタンスから View LDAP データベースをバックアップします。
方法については、『VMware View 管理者ガイド』を参照してください。レプリカ グループ内に View Connection Server インスタンスが複数存在する場合は、1 つのインスタンスからデータをエクスポートするだけでかまいません。
- 3 View Composer を使用する場合は、特定の vCenter Server インスタンスで管理されているすべての ESX/ESXi ホストをアップグレードした後、そのホストで View Composer サービスを再起動します。
- 4 View デスクトップとして使用している仮想マシンで VMware Tools をアップグレードした後、View Agent を再インストールします。

View Agent を再インストールすることにより、仮想マシン内のドライバと他の View コンポーネントとの互換性が保たれます。

View Agent インストーラを実行する手順については、『VMware View 管理者ガイド』（View Administrator の [ヘルプ] ボタンをクリックして表示）を参照してください。

インデックス

A

aspnet_regiis コマンド 35, 37, 39

C

CPU 要件、ローカル モード デスクトップ 17

D

databaseupgrade、結果コード 34
DSN (ドメイン サーバ名)、View Composer 37, 39

E

ESX ホストのアップグレード手順 43, 45

F

Firefox、サポートされるバージョン 16, 18

G

GPO テンプレート 25

I

Internet Explorer、サポートされるバージョン 16, 18

L

LDAP 21
LDAP のアップグレード 25

M

Microsoft SQL Server データベース 15

O

Offline Desktop (現在の Local Mode) 51
Oracle データベース 15

R

RSA キー コンテナ 35, 37, 39

S

SQL Server データベース 15
SSL、証明書フォルダ 39
SSL 証明書のバックアップ 22
SviConfig ユーティリティ 32, 34
SviKeyContainer キー コンテナ 35

V

vCenter Server、アップグレードの準備作業 53
vCenter Server のアップグレード、アップグレードの準備作業 22
vCenter Server 用データ移行ツール 37
vdmadmin.exe ユーティリティ 27
vdmexport.exe ユーティリティ 21, 25
View Administrator、要件 16
View Agent
 アップグレード手順 47, 53
 インストール要件 19
View Client
 アップグレード 47, 49–51
 サポートされるオペレーティング システム 16
View Client with Local Mode、サポートされるオペレーティング システム 16
View Composer
 SviConfig でのデータベース アップグレード 32
 vSphere モード 43, 45
 アップグレード手順 35
 データベース要件 15
 ポート変更 37
View Composer の vSphere モード 43, 45
View Composer のアップグレード
 SviConfig でのデータベース アップグレード 32
 vCenter Server のバージョンとの互換性 14
 新しいマシンへの移行 37, 39
 アップグレード手順 30
 アップグレードの準備作業 22, 35
 オペレーティング システムの要件 14
 データベースのアップグレードが完了しない 34
 ポート変更 30, 35, 39
 要件の概要 14
View Composer のインストール、要件の概要 14
View Composer のポート変更 30, 35, 37, 39
View Connection Server
 新しいマシンへの移行 27
 アップグレード手順 25
 アップグレードの準備作業 21
 アップグレード要件 13
 スナップショットに戻す 28
 ハードウェア要件 11
View Connection Server のインストール
 仮想化ソフトウェアの要件 13
 サポートされるオペレーティング システム 12
 要件の概要 11

View LDAP 21
 View LDAP のアップグレード 25
 View Portal、ブラウザの要件 18
 View Transfer Server
 新しいマシンへの移行 30
 アップグレード手順 30
 View Transfer Server のアップグレード、アップグレード手順 29
 View Transfer Server のインストール
 仮想マシンの要件 13
 サポートされるオペレーティング システム 14
 要件の概要 13
 View Transfer Server の構成、インスタンスの追加 51
 View コンポーネントの互換性マトリックス 7
 VirtualCenter のアップグレード手順 30, 35, 37, 39
 VMotion 43, 45
 VMware Infrastructure 3 5
 VMware Tools、アップグレード手順 43, 45, 53
 VMware View アップグレードのシステム要件 11
 VMwareVDMDS サービス 25
 vSphere、コンポーネントの個別アップグレード 53
 vSphere Update Manager 43, 45
 vSphere データ移行ツール 35

W

Web ブラウザの要件 16, 18
 Windows 7 要件、ローカル モード デスクトップ 17
 Windows Terminal Server 47

あ

アップグレードの準備
 vCenter Server 22
 View Composer 22
 View Connection Server 21
 VMware View のコンポーネント 21
 アップグレードのチェック リスト 9

か

下位互換性 7
 仮想ハードウェアのアップグレード手順 43, 45
 仮想マシン、アップグレード 43, 45

く

クラスタのアップグレード 43, 45

け

結果コード、databaseupgrade 操作 34

さ

サービス
 VMware View Connection Server 25
 VMwareVDMDS 25

し

上位互換性 7
 シンクライアント 47, 49
 シンクライアントのファームウェア アップグレード 47, 49

せ

セキュリティ サーバ、アップグレード 25

つ

通常のデスクトップ プール 48

て

ディスプレイ要件、ローカル モード デスクトップ 17
 データベースのアップグレード
 sviconfig が成功しない 34
 View Composer の SviConfig 32
 データベースの互換性 22
 データベースのバックアップ 22
 テクニカル サポート、VMware 5
 デスクトップ、ローカル 50, 51
 デスクトップ プールのアップグレード、フル クローン
 とリンク クローン プール 47
 デスクトップ プールの管理、プールのアップグレード 48

は

ハードウェア要件
 View Connection Server 11
 ローカル モード デスクトップ 17
 パッチ リリース 25

ふ

物理 PC 47
 ブラウザの要件 16, 18
 ブレード PC 47

ほ

保守期間 25

め

メモリ要件、ローカル モード デスクトップ 17

ゆ

ユーティリティ
 sviconfig 32, 34
 vdmadmin.exe 27
 vdmexport.exe 21, 25

よ

読み取り専用デスクトップ プール 48

ら

ライセンス要件 13

り

リンク クローン デスクトップの管理、アップグレード
手順 47

ろ

ローカル デスクトップのアップグレード 50, 51

ローカル デスクトップの構成、ハードウェア要件 17

ロード バランサ 21

